

2. 沖縄におけるこどもを取り巻く現状・課題・特殊性と「沖縄におけるこどものウェルビーイング」の必要性について

2.1 沖縄のこどもを取り巻く現状・課題・特殊性の調査

2.1.1 沖縄のこどもを取り巻く現状・課題・特殊性に関する文献調査

沖縄のこどもを取り巻く現状・課題・特殊性に関して必要な視点を明らかにするために、主観的要素や教育・保健医療・福祉等の分野や分野の重なり注目しつつ文献調査を実施した。

調査対象の文献は、沖縄県の「こども」に関する計画や会議体(委員会・検討会)、調査報告書、研究論文等より過去 10 年以内を目安に選定し、最終的に 30 件の文献調査を行った(図表 11)。

なお、文献調査は、各文献で内容の概要を記載するレビュー形式にて整理するのではなく、各文献から現状と考えられる課題をリスト化し、考えられる課題を基準に分類して取りまとめた。

この結果は、ヒアリング調査の結果と合わせ 2.1.3 に取りまとめる。

図表 11 沖縄のこどもを取り巻く現状・課題・特殊性に関する文献調査対象一覧

	種類	発行者(発行年)	タイトル
1	計画	沖縄県(令和 7 年)	沖縄県こども・若者計画 ～未来のおきなわっこプラン～
2	計画	沖縄県(令和 4 年)	沖縄県教育振興基本計画(令和 4 年度～13 年度)
3	会議体	沖縄県(令和 6 年)	沖縄県こども・子育て会議 議事概要
4	会議体	沖縄県(令和 6 年)	沖縄県こども計画(仮称)策定に係るこども・若者等の意見表明 実施結果及びフィードバックについて(案)※令和 6 年度第 2 回沖縄県こども・子育て会議「総合部会」【資料 3】
5	会議体	沖縄県(平成 27 年)	沖縄県子どもの貧困対策に関する検討会 議事概要(第 1 回～第 4 回)
6	会議体	内閣府(平成 27 年)	沖縄こども貧困緊急対策事業 事業新設の経緯 ・沖縄の子供の貧困に関する島尻大臣と有識者との懇談(平成 27 年 11 月 9 日) 等 資料、議事概要
7	報告書	沖縄県(令和 6 年)	沖縄県子どもの貧困対策に関する中間評価概要 ※沖縄県こども・子育て会議第 2 回「困難を抱えるこども部会」【資料 6】
8	報告書	沖縄県(令和 6 年)	黄金っ子応援プラン「沖縄県子ども・子育て支援事業支援計画」関連施策の進捗について(第 2 期沖縄県子ども・子育て支援事業支援計画) ※沖縄県こども・子育て会議第 2 回「こども・子育て部会」【資料 6】
9	報告書	沖縄県(令和 6 年)	令和 5 年度青少年の抱える課題や支援策に関する調査報告書(令和 6 年 9 月 11 日公表)
10	報告書	沖縄県(令和 6 年)	令和 6 年度沖縄こども調査(小中学生調査)
11	報告書	沖縄県(令和 5 年)	令和 5 年度沖縄こども調査(0 歳～17 歳)
12	報告書	沖縄県(令和 4 年)	令和 4 年度沖縄こども調査(高校生)
13	報告書	沖縄県(令和 3 年)	沖縄県子どもの貧困対策に関する最終評価報告書(令和 3 年 11 月)
14	論文	嘉納英明(2024 年)	沖縄における外国籍等の子どもの支援に関する研究 ―沖縄市の事例を中心に―、沖縄大学地域研究所, 地域研究 31 号, pp.19-34.
15	論文	宮本ももこ(2024 年)	子どもの貧困問題に対する「地域循環型一貫支援」の可能性―沖縄本島中南部の子ども食堂に着目して―、東京外国語大学大学院, 言語・地域文化研究 第 30 号, pp.137-152.
16	論文	野村 他(2023 年)	貧困状態にある子どもに対する校内支援に影響する要因の分析, 上越教育大学, 上越教育大学教職大学院研究紀要 10 巻, pp.185-194.
17	論文	水野和男(2022 年)	沖縄県における子どもの貧困と学びの保障 教育環境の分析による教育地理学的考察, 旭川大学保健福祉学部, 旭川大学保健福祉学部研究紀要 14 巻, pp.45-51.
18	論文	加藤彰彦 他(2021 年)	沖縄の子どもにおける「共育的關係」構築への考察, 沖縄大学地域研究所, 地域研究 10 号, pp.91-113.
19	論文	和田 他(2020 年)	沖縄県 E 自治体における保健福祉行政職員の貧困家庭への支援の現状と課題, 名桜大学環太平洋地域文化研究所, 名桜大学環太平洋地域文化研究 第 1 号, pp.59-70.

	種類	発行者(発行年)	タイトル
20	論文	佐久間 他(2020 年)	離島における自治体主導型学習支援事業の現状と課題—沖縄県北大東村「なかよし塾」を事例に一, 国立大学法人 琉球大学島嶼地域科学研究所, 島嶼地域科学第 1 号, pp.21-40.
21	論文	山内 他(2020 年)	沖縄県の合計出生率はなぜ本土よりも高いのか, 日本地理学会, 地理学評論 93 巻 2 号, pp.85-106.
22	論文	長谷川裕(2020 年)	〈格差と学び〉問題との取り組みと「学びとケアをつなぐ」ことの意味—沖縄県内公立 X 小学校の「全国学力テスト」の結果の経年分析を交えながら—, 琉球大学大学院教育学研究科, 高度教職実践専攻(教職大学院)紀要 4 巻, pp.25-46.
23	論文	島村 他(2017 年)	子どもの居場所等の意義と関係機関等との連携に関する研究—居場所等の機能に着目して—, 沖縄大学地域研究所, 地域研究 20 号, pp.155-165.
24	論文	島村 他(2019 年)	子どもの居場所等の意義と関係機関等との連携に関する研究—居場所等の機能に着目して—その 2—, 沖縄大学地域研究所, 地域研究 24 号, pp.51-62.
25	論文	中川 他(2018 年)	子育て世代の金融教育と家計管理支援に関する考察—沖縄における支援プログラムを事例として—, 消費者教育, 消費者教育 vol.38, pp.33-42.
26	論文	嘉納英明(2018 年)	子どもの学びの場と居場所づくり:名護市の学習支援教室を通して, 沖縄大学地域研究所, 地域研究 21 号, pp.77-86.
27	論文	本村真(2018)	子どもの居場所支援における学生ボランティアの役割に関する考察, 国際ボランティア学会, ボランティア学研究 18 巻, pp.41-50.
28	論文	嘉納英明(2017 年)	沖縄の子どもの貧困問題について考える—近年の貧困対策をめぐる動向—, 日本子ども社会学会, 子ども社会研究 23 号, pp.55-68.
29	論文	嘉納英明(2017 年)	子どもの貧困問題と大学の地域貢献—子どもの居場所学生ボランティアセンターの設立を中心に—, 基礎教育保障学会, 基礎教育保障学研究創刊号, pp.61-69.
30	論文	比嘉昌哉(2015 年)	沖縄県の就学援助制度の現状と課題:県内市町村教育委員会へのアンケート調査を通して, 沖縄国際大学人間福祉学会, 沖縄国際大学人間福祉研究 第 11 巻 第 1 号, pp.1-23.

2.1.2 沖縄のこどもを取り巻く現状・課題・特殊性に関するヒアリング調査

文献調査より整理した結果のうち、情報が少なかったが重要と考えられる現状・課題・特殊性について、より詳しい内容を求め、課題の深掘を行うべく有識者にヒアリングを実施した(図表 12)。各有識者からの具体的なヒアリングの結果を示す(図表 13)。

なお、沖縄のこどもの現状・課題一覧に対する意見・指摘は、2.1.1 の文献調査の結果の取りまとめに内容を反映し、研究テーマ・研究体制に関する意見は、3.1.1 に反映した。

図表 12 ヒアリング調査(沖縄のこどもを取り巻く現状・課題・特殊性)の概要

対象者	学識者、自治体・行政の担当者、実際にこどもと接する現場の方 10 名
実施期間	2025 年 8-9 月
質問内容の概要	1. 個別に異なる質問 ● スクールソーシャルワーカーの配置推進と活動の効果について ● 「つまずき」をフォローする支援の現状について ● 居場所と行政の連携について、その他こどもに近い立場からの視点 ● こどもの身体的・精神的健康やライフステージを通じた支援に関して ● 小規模離島におけるこどものウェルビーイングに関して ● こどものウェルビーイングに関するアンケートについて 2. 共通質問 ● 沖縄のこどもの現状・課題一覧に対する意見・気づき ● こどもへの支援を進めるにあたって効果的な方法・判断に迷う点 ● 自身の仕事・業務で役立つ研究 ● 本調査に関する意見

図表 13 ヒアリング調査(沖縄のこどもを取り巻く現状・課題・特殊性)の結果概要

ヒアリング対象者(敬称略)・ヒアリング概要
沖縄国際大学 総合文化学部 人間福祉学科 教授 比嘉 昌哉 ※協議体構成員 <スクールソーシャルワーカー(SSW)の配置推進と活動の効果について> ● 学校毎でスクールソーシャルワーカー(SSW)への理解が異なる場合がある。SSW がうまく機能するためには、管理者(学校の校長や先生)の理解が重要であり、管理者とのコミュニケーションを通して連携・協働が必要。 ● 「ゆいまー(助け合い)」という言葉があるように、沖縄でも少子化・文化性として血縁・地縁の強さがあり、そのため支援が難しいこともある。また、マイナス面の世代連鎖が続くという課題もある。 ● 若年での出産が多い背景には「なんくるないさ(なんとかなる)」という文化もある。若年の妊産婦への早期支援や性教育の重要性、若年妊産婦のこどもへの手厚い支援等を実施していく必要がある。 ● 進路未決定者や中途退学者は、沖縄は全国の2倍いるとされている。学校卒業後に支援が途切れてしまうという課題がある。SSWは学校卒業後の進路も考慮し、次の進路につなげる支援が必要。 ● こどもは発達途上にあり影響を受けやすい。また、保護者の支援をどうしていくべきかについても、考えなければならぬ。そのためには教育・福祉だけでは難しく、医療・保健・司法・心理等様々な分野の学際的な連携が必要。
那覇教育事務所 スクールソーシャルワーカー <スクールソーシャルワーカー(SSW)の配置推進と活動の効果について> ● 沖縄では拠点校配置(拠点校の中学校と同じ校区の小学校を担当する配置)が多く、同じ校区にきょうだいがいるこどもの事案(ケース)に効果的。 ● スクールカウンセラー(以下、「SC」という。)とSSWとの出勤日や曜日を合わせることが出来ないため、情報共有が難しくなっていると感じる。SC、SSW共に担当となる学校数が多すぎる上に、広域が原因。予算の問題も関わっていると考えている。 ● SCとSSWの役割分担が課題。個人の内面に働きかけるSCと他機関とのチームで環境に働きかけるSSWとではアプローチ方法が異なるのだが、その理解が薄い場合、支援の協働が難しくなる。 ● 教師の疲弊度は、沖縄県におけるこどもの学力の低さや保護者への対応がより一層求められていることによる影響が大きいと感じる。こどもや保護者へのケース対応を通じて教師への負担軽減のサポートを行っている。 ● ケース会議をコーディネートする教師が学校内にいる場合は支援活動がスムーズに行く場合が多いと感じる。この立場は管理職や生徒指導と呼ばれる教師に多い。加配の(授業を持たず必要な役割のみを行う)教師を増やす予算が必要。県外でも推奨されているが、コーディネートするような教師は大抵加配とされている。最近は加配より教師不足への対策に予算がより多く割かれたため、配置が困難な状況。 ● 家庭での教育を前提として、文部科学省の教育カリキュラムは想定されているが、沖縄県のこどもの多くはこのベースが足りていない状態。
名城大学大学院 国際文化研究科 教授 嘉納 英明 <「つまずき」をフォローする支援の現状について> ● 小学校入学前からトータルな支援と支援体制の構築が必要。小学校入学時点でつまずきが生じているこどももいる。家庭教育の脆弱さが随分とあり、入学時点で担任の先生が言っていることがわからないこどももいる(一般のこども、発達障害等の特性があるこども、外国籍のこども)。 ● 「家族丸ごと支援」という方策をどのように構築するかが課題だと考えている。こどもだけでなく親へも支援をしなければ、貧困問題の解決は困難。 ● こどものつまずきに対して、一体的な支援において誰がイニシアチブをとるのが大きな課題。行政の社会福祉課、児童福祉等には情報があるが、学校側とうまく共有されていない。こどもたちと伴走する人が見えないことが課題。また、教師側としては働き方改革等で17時には勤務を終了してしまい、放課後のこどもの様子を知る機会が乏しい。 ● 支援がなく地域の文化資源につながってもいないこどもがいることが沖縄の課題。児童館も絶対数が足りていない。地域の様々な活動そのものが不在で、こどもたちが孤立していることを強く感じる。
沖縄県 こども若者政策課、こども家庭課 <「つまずき」をフォローする支援の現状について> ● 沖縄県で実施する分析評価支援事業として、困難を抱えている生徒をいち早く見つける「スクリーニング」では、働き方改革の影響で教職員の業務負担軽減が求められているため、新規事業の導入に際して同意形成が難しい。また、学校経営への影響から実施を躊躇する学校や市町村が多く、実践校の拡大が進みにくい状況が課題。 ● 行政の管轄が、小・中学校まで市町村で、高校から県に移り、そこで支援が途切れるケースが多い。「子ども・若者支援地域協議会」で把握できていれば高校への連携がスムーズになるが、8月現在で同協議会が設置されている市町村は石垣市と伊江村のみ。 ● 組織横断的な支援は重要。沖縄県では「こども施策調整班」というマトリックス組織を置いている。教育・福祉・保健・雇用等を所管する担当課の職員が集まり、必要に応じて会議している。
NPO 法人エンカレッジ 代表 坂 晴紀 <「つまずき」をフォローする支援の現状について> ● 教室管理者(一般的な塾長や教室長の立ち位置)は、こどもと関わる時間が長く信頼関係を築いているため、こどもの変化に気付きやすい。変化に気付いた段階で、本人と話し合ったり、保護者や役所(福祉部)と連携している。また、広域支援員は、アウトリーチ活動を行っており、学校に訪問して当団体の活動内容の説明を行い、こどもを学校から紹介してもらっている。また、紹介後のこども本人の状況を学校に報告する役割も担う。 ● 一般の学習塾でも学力向上の他に、生活面の向上やセーフティネットの機能はあるが、塾に来ることのできないこどもこそ、そういったフォローが必要である。教育面だけの支援では厳しい子が多いと強く感じる。 ● 支援の継続に必要な専門領域との連携が必要。つまずきに関して、学習面だけではなく、貧困・発達等、複数の要因がある中で、1つの専門分野の知識だけでは解決が難しい。こども本人だけではなく、きょうだいや保護者の情報も含めた、医療・保健分野との連携も必要。さらに、こどもは非行や虐待の被害者となるため、司法分野(警察、弁護士、家庭裁判所等)との連携の必要性もある。個別の団体による支援であると、情報不足・経験不足から時間がかかるケースや、判断が難しいケースもある。 ● 評価指数のような評価方法が必要。支援の効果をどのように測定・評価するか。学力テストだけではなく、こどもの心の変化や社会性の向上といった、定性的な指標も重要。経年での測定が必要。

一般社団法人カナカナ 代表理事 仲本 かなえ <居場所と行政の連携について> ● (一社)カナカナでは拠点型居場所として総合的な支援(家庭、生活環境、精神的負担、食事、学習支援、コミュニケーション等)を 365 日行う。保護者と顔を合わせて会話し、信頼関係を築くことで家庭の課題(金銭的な課題、養育、就労等問題等)を把握し、関係機関につなげる取組を行っている。家庭まで支援することが重要。 ● 学校・行政との連携も重視する。居場所に来ることも保護者は、学校・行政との関係が良好ではないケースが多い。民間団体という立場は斜めの関係性を築きやすく、保護者との関係性が取りやすいため、保護者の情報や課題を関係機関につなげる取組をしている。 ● 学習支援の前段階のこどもは、学校に行かないために学習支援も受けられず、さらに学校から足が遠のく。ビジョン形成にあたっては親やきょうだいで見て学ぶことが多いが、生活保護世帯で親が働く姿を見ておらず、働かなくても生活が成り立つという意識がある。また、親から高校卒業後、就業を促されることもや、その希望を叶えるためのビジョンを想像ができないこどもが多い。大学生のボランティアを受け入れ、こどもと交流してもらったり、大学にて行われる大学主催のイベントに足を運んでもらったりすることで、中学高校とは違う環境に直に触れる機会を設け、将来のイメージを持てるようにしている。 ● 健康面では、病院への通院が課題であり、特に、歯 ブラシ自体も家になく 3-4 歳で歯茎が腫れているこどもがいる世帯は多い。受診のハードルとなるのは金銭的問題ではなく、「病院に行かなくてもなんとかなる」という親の意識である。
沖縄県立南部医療センター・こども医療センター 副院長 中矢代 真美 <こどもの身体的・精神的健康やライフステージを通じた支援に関して> ● 沖縄のこどもの生活習慣や身体的な健康に関して特徴的なこととしては、コロナ禍直前の時期から全児童に占める肥満児童の割合の伸びが急峻。 ● 全国体力・運動能力運動習慣等調査のデータより、令和 4 年度では沖縄県の肥満出現率は小学校男児で 18.5%(全国 14.5%)、小学校女児 13.3%(全国 9.8%)。同調査より、運動量に関しても沖縄県の小学校 5 年生は 1 週間の運動時間が 60 分未満の割合が 12.8%(全国 8.8%)、小学校 5 年生女児では 13.3%(全国 9.8%)と運動不足のこどもが多い。 ● 沖縄県は非常に車社会であり、通学が運動になっていない。車社会という文化的な慣習もある。 ● 課題一覧より「受診抑制経験がある低所得者の多さ」は、当てはまらない印象。沖縄県でこどもの受診は無料化され、17 時から 23 時の間に安易な受診が殺到しており、疲弊して退職していく小児科医が多い。小児科医が不足して救急車の受け入れや、二次医療や三次医療もできなくなっている。沖縄県の小児医療の衰退にもつながっている。沖縄県では小児科医に特化した医師確保政策を持っていない。
座間味村教育委員会 学校教育担当 <小規模離島(島立ち)のこどものウェルビーイングに関して> ● 小規模離島にも、移住者の割合など島によって特徴がある。座間味村は半数程度が移住者。大学進学後に島に戻ってくる割合は、島出身者よりも移住者のほうが高い印象。島に戻ってきてもらうために島内での職業体験の機会なども設定している。血縁地縁の共同体子育て文化は、少なくなっているが文化が続いているところもあると思う。しかし半数以上が移住者であるため血縁地縁が薄く、こどもを放課後にみていてほしいという願いは難しい状況。 ● こどもが少なく、先生と児童が 1 対 1 に近い学習環境にあり、良い意味で 1 人ひとりが目立っており、ほめられることも多く、自己肯定感が比較的高い印象がある。 ● 保育園や認定こども園の設立、学習塾などの要望が出ているが、実態に合わせた運営・予算・土地・人員などの問題から対応が難しい。人員確保の観点では、欠員補充のハードルの高さや、住居がないことも課題である。 ● 島を出て高校進学する際の課題として、大人数クラスに馴染めない(レベルの高い子がいて心が折れる)、一人暮らしとなった際の生活力などがある。また行政側の担当が変わる際の連携の課題もある。 ● 離島のハンデを克服する取り組みとして、島を出る前の早い段階から行政と支援員で相談して必要なサポートを検討する、本島の児童・生徒や座間味村内 3 校で交流機会を設ける交流学習や、部活遠征や習い事などで本島に行く際の費用の補助(交通費・宿泊費)がある。 ● こどもの母数が少ないため事例の引継ぎが積極的に行われず、継続的な支援体制維持に課題がある。
東京都 子供政策連携室 企画調整部 企画調整課 <沖縄のこどものウェルビーイング向上に関する全般的な質問(アンケートに関する内容)> ● こどもの幸福度を高めるための政策の検討について、『福祉や教育など、従来の行政分野の枠組みにとらわれることなくこどもたちに関する実態や意識を把握し、今後のこども政策を検討するために、令和 5 年度から継続的にこどもに関する定点調査(とうきょうこどもアンケート)を実施している。経年の変化も分析し、より強固なエビデンスに基づいた実効性のある政策の推進につなげていく。』(「とうきょうこどもアンケート」調査報告書)一部参照)。 ● こどもの幸福度との関連性を明らかにするために行った重回帰分析では、変数の選択に苦労した。
国立成育医療研究センター 研究所 政策科学研究部 部長/国立成育医療研究センター 成育こどもシンクタンク戦略支援室 副室長 竹原 健二 ※協議体構成員 <沖縄のこどものウェルビーイング向上に関する全般的な質問> ● こどもの権利の保障や健康、自己効力感といった普通のこどもの幸せに対してどのように取り組むのかを、貧困対策とパラレルに検討を進めなければ、適切な方向性にならないと考える。 ● どの課題も重要だが、政策・財源にあたりデータで示すことが難しい項目が多く、沖縄の計画に含まれていない事項については対策のための財源等を検討する必要があるのではないか。 ● 本プロジェクトは大事な取組と考えているため、表面的な調査にはしたくないという想いがある。 ● 例えば、東京や都市圏へ優秀な人材の流出・搾取といった構造的な問題に対処しないと、本質的な解決にならない。 ● 今後の離島政策に向けて、将来的に、離島の全数調査を提言するような内容を示せるとよい。

2.1.3 取りまとめ

文献調査とヒアリング調査の結果から、沖縄のこどもを取り巻く現状・問題としての「現状」と現状とあるべき姿のギャップを解消するために必要な施策・政策としての「考えられる課題」を抽出・整理し、「考

えられる課題」に対して分類を行った。分類は、課題の内容による分類、「こどものウェルビーイング測定の概念的フレームワーク(OECD)」の 카테고리による分類を実施した。

課題の内容による分類では、3の大分類と15の小分類を設定した。大分類は、OECDによる「こどものウェルビーイング測定の概念的フレームワーク」のこどもの環境(レベル C)の3分類(「家庭・家庭環境」、「学校・ECEC の環境」、「地域社会・物的環境」)を援用し、「家庭」、「学校・医療福祉施設」、「地域社会」の3つの分類に、「その他」を加えた設定とした。小分類は、「食事・健康」、「医療アクセス」、「親の状況」、「住居・近隣地域」、「自覚・自己肯定感」、「学力、学習支援・キャリア教育・ライフプラン教育」、「進学・就学支援・就労支援・自立支援」、「インクルーシブ」、「保育・教育現場の制度・体制」、「保育士・教職員以外の支援者の制度・体制」、「居場所(サードプレイス)」、「歴史・文化・価値観(集団意識)」、「インターネット・SNS・ゲーム利用」、「行政手続き・周知」、「データの利活用」の設定とした。

なお、沖縄のこどもの特殊性については2.6にて、既存調査の整理・分析やアンケート調査の内容を踏まえて整理している。

図表 14 課題の分類結果(概要)

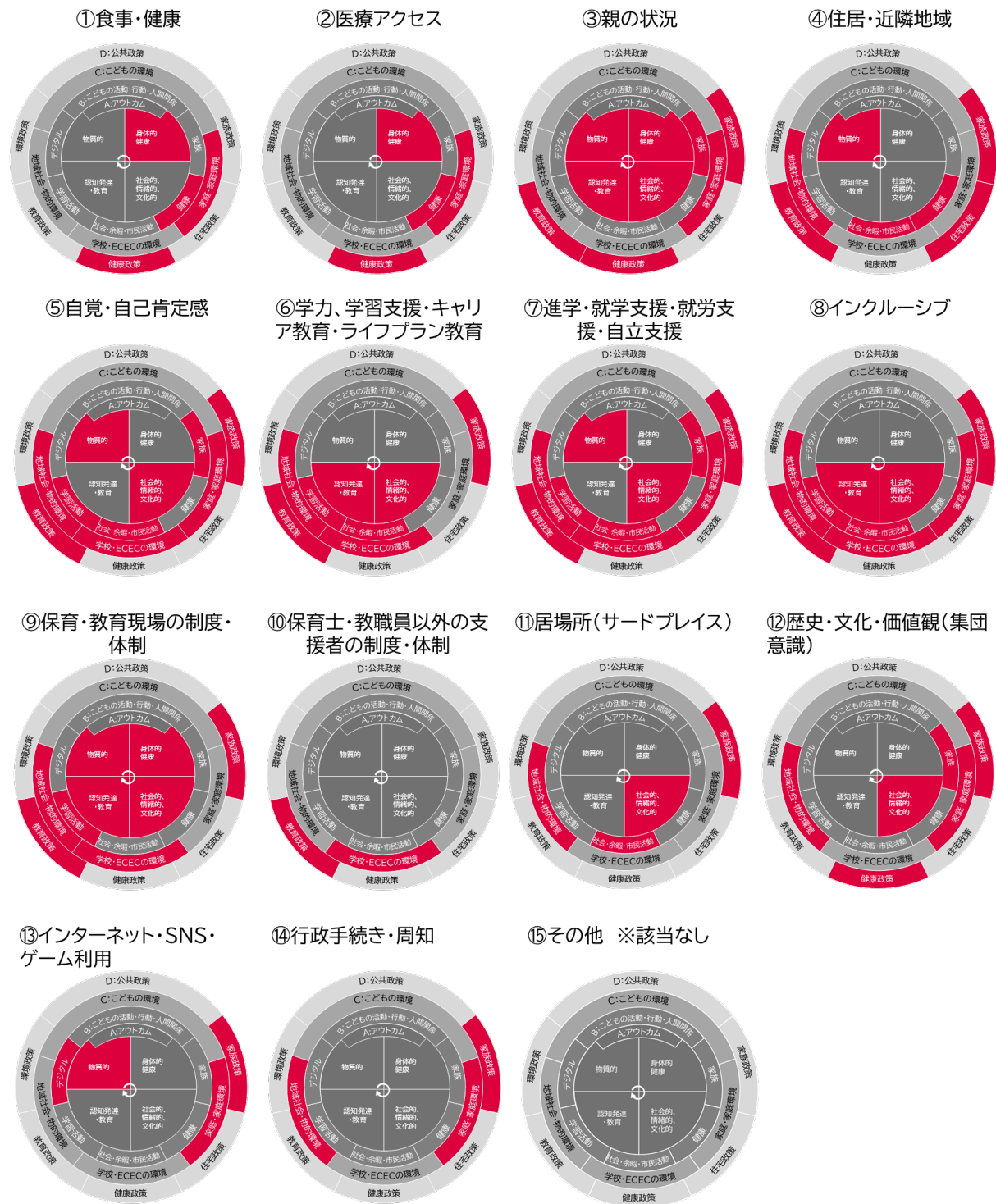
家庭	- 食事・健康 - 医療アクセス - 親の状況 (離婚・ストレス・虐待・ネグレクト・経済状況・就労状況・無関心) - 住居・近隣地域 - 自覚・自己肯定感	- 低所得層に対する食育や運動の推進・支援 - 受診抑制を減らすための医療政策課による計画との整合性や小児科医の確保の充実 - ひとり親家庭や経済的な困窮家庭における親のダブルワーク・トリプルワークの解消方法の必要性 - 家事援助ヘルパーやアウトリーチ型の家庭相談の充実等、低所得世帯が頼れる相手の検討 - 経済状況での格差が生じずコミュニティの活性化にもつながる地域イベントの各地域での開催・参加促進による体験・経験の地域間格差の解消の必要性 - 貧困状態や虐待やヤングケアラーに関するこどもの自覚の必要性についての検討、(親子への)こどもの権利の周知
学校・医療福祉施設	- 学力、学習支援・キャリア教育・ライフプラン教育 - 進学・就学支援・就労支援・自立支援 - インクルーシブ(障害・病気・外国人等の受入態勢) - 保育・教育現場の制度・体制 - 保育士・教職員以外の支援者の制度・体制	- 発達段階に応じた学校等でのキャリア教育や職業観の育成、就労意識の向上に資する方法の検討および実行 - 困難や課題を抱えるこどもの様々な背景・要因が重なり複雑化している場合の専門的なアセスメントやケア・支援、親への包括的な支援 - 進路未決定や中途退学に繋がる複合的な背景をもつ生徒に対する、早期段階での積極的なアウトリーチによる支援の必要性 - 発達障害や発達に気になるこどもに対する発達段階に応じた高い教育・保育を提供できる体制整備 - 教職員の多忙化・過負担による疲弊への対策 - コミュニティソーシャルワーカー、ファミリーサポートセンター等自治体を基盤とした家庭支援の拡充・周知の徹底
地域社会	- 居場所(サードプレイス)(学童・こども食堂等) - 歴史・文化・価値観(集団意識) - インターネット・SNS・ゲーム利用	- 居場所を失う可能性のあるこどもへの就学前からの予防と既に居場所を失い問題が複雑化した中高生へのアプローチの強化に関する方法の必要性 - 親の状況や親の価値観の刷り込み(早婚・若年出産等)に対して物事を適切に判断する力の低学年からの涵養 - こどもの居場所の運営支援の継続・発展等により「体験格差」を埋めるなど低所得層であっても将来の選択肢を狭めない時間の使い方ができる施策の必要性
その他	- 行政手続き・周知 - データの利活用	- 生活保護取得基準に関する沖縄県の地理的背景(車の必要性等)を考慮した見直し - 量的・質的研究における学術的なデータや検討の充足

※ 課題を分類する場合には、複合的なものも含まれる(例:家庭環境に起因する学校での課題等)が、ここでは課題の主たる対象を基準に便宜的に分類した。

また、OECDによる「こどものウェルビーイング測定の概念的フレームワーク」のカテゴリの分類では、4つの大分類と15の小分類のうち、15の小分類の関連する層・分野の位置をそれぞれプロットすると、各小分類で見ても、沖縄のこどもを取り巻く現状・課題は多層的・多元的に存在していた。そのた

め、分野横断的な対応や、関係者間での連携が必要となることが分かった(図表 15)。

図表 15 沖縄の子どもを取り巻く現状・課題の整理(OECD のフレームワークを用いて)



2.2 既存調査の整理・分析

沖縄のこどもに関する主観的要素について定量的に調査・分析されている既存調査を整理・分析した。また、個票データ等で追加のデータ分析が可能な場合には沖縄の特徴を追加で把握した。

沖縄のこどもに関する主観的要素は、客観的要素と比べて、沖縄県やこどもを対象とした公的な調査が少なく、情報が限定されていることから、「沖縄のこども」だけではなく、「沖縄県の大人」を対象とした調査も含めて整理・分析を行った。これにより、沖縄の大人・こどもを含めた「沖縄県」の主観的要素の定量的な把握状況を整理するとともに、本事業で実施するアンケート調査の分析の比較対象及び考察時の参考とした。既存調査の調査対象としては、図表 16 の 4 件とした。

図表 16 既存調査の調査対象一覧

	発行機関	調査名 (調査年)	区分	調査対象 (サンプルサイズ)	調査の概要	整理・分析の観点
1	内閣府	満足度・生活の質に関する調査(2024年)	大人	日本国内に住む 15 歳～89 歳の男女インターネットパネル登録モニター(全国 10,633、沖縄県 214)	我が国の経済社会の構造を人々の満足度(Well-being)の観点から多面的に把握し、政策運営に活かす。	個票を入手し、沖縄県と全国を比較、沖縄県(の大人)の主観的要素の傾向を把握する。
2	デジタル庁・一般社団法人スマートシティ・インスティテュート	地域幸福度(Well-being)指標ダッシュボード(全国 Well-being 調査)(2024年)	大人	全国 18 歳～89 歳の男女、インターネット調査(全国 101,498、沖縄県の記載なし)	市民の Well-being 向上に向け、活用することを目的とする。主観データと客観データ。数値は偏差値表示。	ダッシュボードのデータをもとに沖縄県と全国を比較し、沖縄県(の大人)の主観/客観要素の傾向を把握する。
3	沖縄県	沖縄こども調査(令和 6 年度小中学生調査/令和 4 年度高校生調査)	こども	[小中学生]県内小中学校の小 1 の保護者、小 5 の児童・保護者(児童 2,055)、中 2 の生徒・保護者(生徒 1,733) [高校生]県立高等学校に通う高校 2 年生(22 歳以上除く)の生徒・保護者(生徒 3,373)	沖縄県のこども及びその保護者の生活実態や支援ニーズ等の把握・分析を行い、こどもの貧困対策の効果的な実施や施策の評価に活用する。	沖縄のこどもの主観的要素の傾向を把握するための参考資料とする。個票や集計データの公表がないため報告書から集計表等を抜粋する。
4	こども家庭庁	こども・若者の意識と生活に関する調査(令和 4 年度)	こども	全国 10～69 歳の男女、郵送法(オンライン併用)(全国 30,000 のうち、10～14 歳 2,813、15～39 歳 17,187、沖縄県の記載なし)	こども・若者を取り巻く現状及び課題を的確に把握し、国及び地方公共団体におけるこども・若者育成支援施策や家庭・学校・地域・職域等におけるこども・若者育成支援の改善・充実に資する基礎資料を得ることを目的とする。	全国のこどもの主観的要素の傾向を把握する。あわせて本事業のアンケート結果と比較する。

2.2.1 内閣府「満足度・生活の質に関する調査」

(1) 調査の概要

内閣府「満足度・生活の質に関する調査」は、国内における経済社会の構造について、GDP といった経済的指標だけではない観点として人々の Well-being に着目し、多面的に把握することを目的としている。生活の幅広い範囲について包括的に評価できる体系として主観的指標である生活満足度や意識の他、客観的指標である仕事や家庭の状況、生活の実態や動向を問う調査形式としている。2024 年 2 月に実施した第 6 回調査は一部設問の入れ替えはあるものの 2019 年から毎年行われているイン

ターネット調査であり、第 3 回調査(2021 年)からは回答者の過半数が毎回前年度調査と同じ対象者である¹⁸。このため、総合的および分野別の生活満足度の動向等を時系列で分析できるようになっている。

調査報告書では、満足度の過去、現在、未来の動向を分析している。また、働き方と満足度の関係、社会とのつながりや教育環境といった 13 分野のうち重要事項(生活満足度を判断する際に重視した事項)と評価事項(生活するにあたり高く(もしくは低く)評価している事項)の関係等に関する分析を行っている。

図表 17 満足度・生活の質に関する調査(第 6 回)の実施概要

目的	総合的な主観的満足度及び分野別満足度を調査し、客観指標との関係性を明らかにする。
調査方法	インターネット調査
対象者	日本国内に住む 15 歳～89 歳のインターネットパネル登録モニター
対象者数	約 10,000 人
モニター割当	次頁の回収数集計(割当集計)表を参照。
調査期間	2024 年 2 月 2 日(金)～2 月 28 日(水)
調査内容	・総合主観満足度 ・分野別主観満足度に影響を及ぼす項目(重要項目) ・分野別満足度 ・分野別の将来の不安(持続可能性) ・総合主観満足度に重要な分野 ・属性・生活実態

出所)内閣府「2024 年実施概要・調査票」(<https://www5.cao.go.jp/keizai2/wellbeing/manzoku/pdf/chosahyo6.pdf>)
(2026/3/24 閲覧)

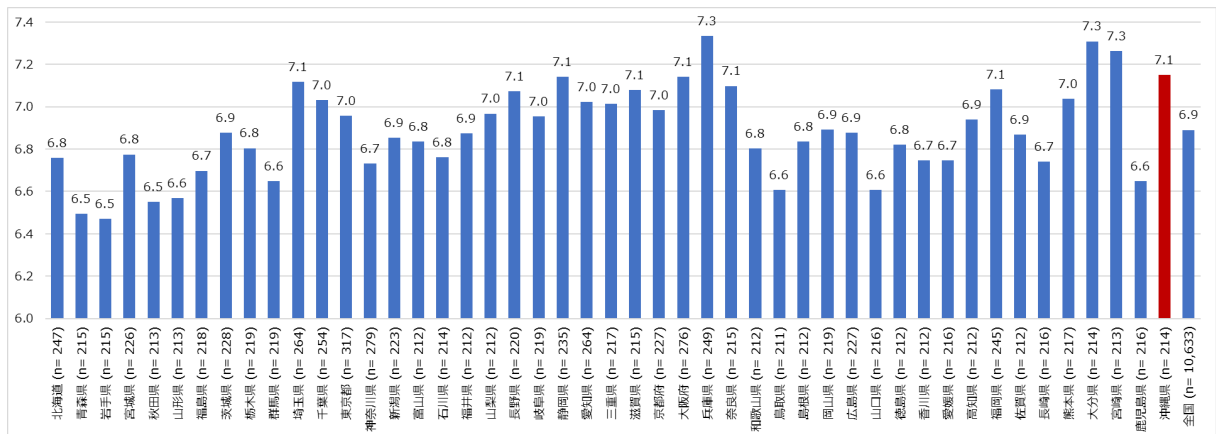
(2) 沖縄県の主観的要素に関する基礎データ

「満足度・生活の質に関する調査」の 2024 年調査の個票を入手し、総合主観満足度についてデータを集計した。

都道府県別の総合主観満足度を算出すると、沖縄県の平均値は 7.1 であり、全国の平均値 6.9 より高く、都道府県で比較しても高い水準であった(図表 18)。

¹⁸ 調査会社に登録された回答者のグループ(パネル登録モニター)で調査対象者を固定している。

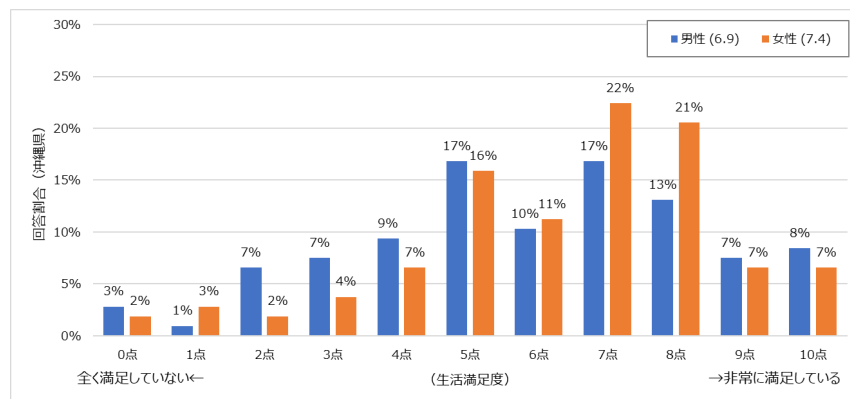
図表 18 総合主観満足度の都道府県別平均値(2024 年)



※ 設問「Q1.あなたは全体として現在の生活にどの程度満足していますか。[全く満足していない]を 0 点、「非常に満足している」を 10 点とすると、何点くらいになると思いますか。いずれか 1 つだけ選んでください。」
出所)内閣府「満足度・生活の質に関する調査 2024」の個票より MRA 作成

また、沖縄県の総合主観満足度について、男女別に平均値を算出すると、男性 6.9、女性 7.4 で女性の方が高かった。女性は点数のピークが 7～8 点で 20%超であり、対して男性は、2～4 点の割合が女性より高いことに加え、ピークは 5 点と 7 点で、ピーク時の割合も女性より低かった(山が低い状態)(図表 19)。

図表 19 沖縄県の性別生活満足度の分布(2024 年)



※ 設問「Q1.あなたは全体として現在の生活にどの程度満足していますか。[全く満足していない]を 0 点、「非常に満足している」を 10 点とすると、何点くらいになると思いますか。いずれか 1 つだけ選んでください。」
出所)内閣府「満足度・生活の質に関する調査 2024」の個票より MRA 作成。沖縄県 n=214(男性 n=107、女性 n=107)

(3) 沖縄県の主観的要素に関するデータ分析

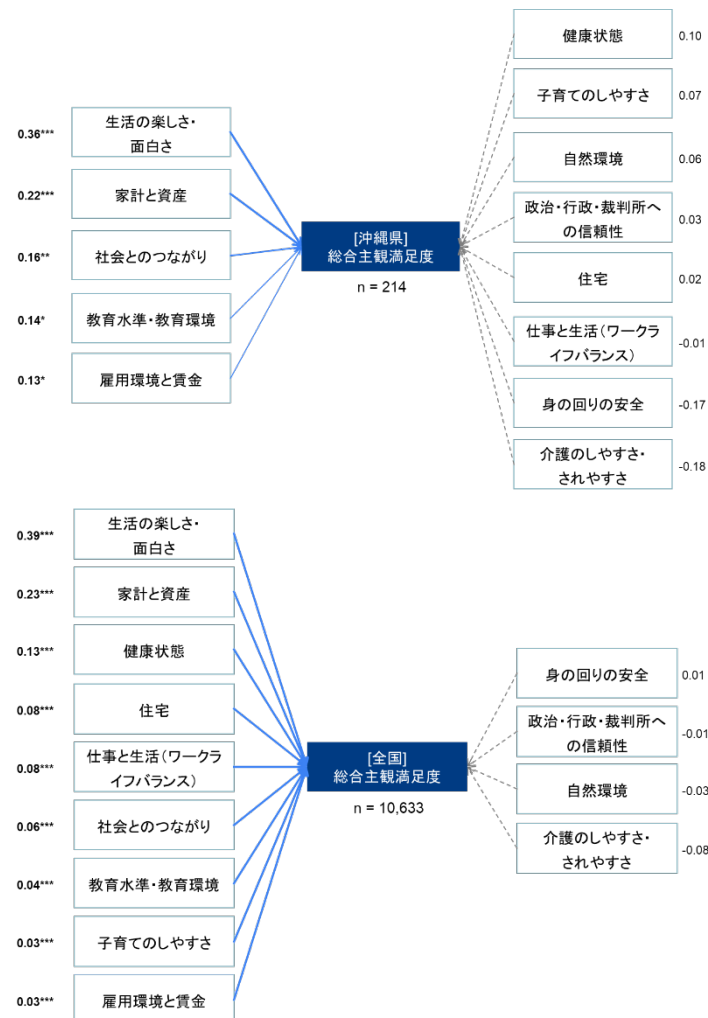
「満足度・生活の質に関する調査」の 2024 年調査の個票を用いて、主観総合満足度とそれに紐づく 11 の分野別主観満足度の関係性について、全国と沖縄県でそれぞれ重回帰分析を行った(図表 20)。

総合主観満足度と関係の強い、統計的有意がある分野別主観満足度は、沖縄県では「生活の楽しさ・面白さ」、「家計と資産」、「社会とのつながり」、「教育水準・教育環境」、「雇用環境と賃金」の 5 分野であった。全国では、沖縄県と同じ項目に加えて、「健康状態」、「住宅」、「仕事と生活(ワークライフバラ

ンス)」、「子育てのしやすさ」の9分野であった。

「社会とのつながり」、「教育水準・教育環境」、「雇用環境と賃金」の3項目は、沖縄県の係数は全国より高く、総合主観満足度へ与える影響が大きいといえる。

図表 20 総合主観満足度と分野別主観満足度の関係性の分析(沖縄県と全国)(2024 年)



※ 矢印は実線(左側)が正の符号かつ有意であった分野別主観満足度の項目(*** :1%、** :5%、* :10%)、右側は負の符号あるいは有意ではなかった分野別主観満足度の項目。数値は偏回帰係数。調整済み決定係数は、沖縄県 0.64、全国 0.63。
出所)内閣府「満足度・生活の質に関する調査 2024」の個票より MRA 作成

2.2.2 デジタル庁・SCI-Japan「地域幸福度(Well-being)指標ダッシュボード」

(1) 調査の概要

一般社団法人スマートシティ・インスティテュート(SCI-Japan)「地域幸福度(Well-being)指標」¹⁹は、主観指標と客観指標のデータをバランスよく活用し、市民の「暮らしやすさ」と「幸福感(Well-being)」を指標で数値化・可視化した指標であり、市民や地域の Well-being の向上にあたり指標を

¹⁹ デジタル庁・一般社団法人スマートシティ・インスティテュート「地域幸福度(Well-being)指標活用ガイドブック」(https://www.sci-japan.or.jp/vc-files/images/LWC/guidebook_v2023-01.pdf)(2026/3/24 閲覧)

利用することで、まちづくりのための複数の事業における価値観や目的をすり合わせ、それぞれの取り組みの円滑な連携を図ることができる。また、地域幸福度(Well-being)指標は、各地域における政策(手段)と、その政策のインパクトとして現れる市民の幸福感等(目的)を結び付け、インパクトに対するアウトプットやアウトカムを測定可能とすることができると説明されている。

なお、地域幸福度(Well-being)指標は、デジタル庁「デジタル田園都市国家構想推進交付金デジタル実装タイプ TYPE2/3」の申請にあたり、事業目的の達成度を評価するための KPI 作成において活用されている。

地域幸福度(Well-being)指標は、地域における幸福度・生活満足度を計る 4 つの総合指標と、「生活環境」、「地域の人間関係」、「自分らしい生き方」の 3 つの因子群、24 のカテゴリーに細分化された主観(ウェルビーイング)指標及び客観指標で構成されている。主観(ウェルビーイング)指標と客観指標でそれぞれ同一の因子群・カテゴリーとなっており、主観と客観を同じ構成で紐づけ、因子間の関連から地域が注目すべき因子の抽出が可能となる。

地域幸福度(Well-being)指標のデータは、全国 18 歳～89 歳の男女を対象とした「全国 Well-Being 調査」というアンケート調査(インターネットパネル登録モニターによるインターネット調査)から作成されている。2022 年から毎年調査が実施され、2024 年の調査で 3 回目となる。2024 年の調査では有効回答数は 101,498 である。(図表 21、図表 22)

調査の結果として、データは実数または偏差値化され、地域幸福度(Well-being)指標として、デジタル庁が公開する「地域幸福度(Well-being)指標ダッシュボード」にて、都道府県別・自治体別に横並びでデータが確認できる。

図表 21 「令和 6 年度全国 Well-being 調査」の概要

項目	調査概要
調査設計	100以上確保できる自治体の数を極大化するため、母集団構成比による回収は考慮せず、自治体の規模に応じて回答数の目標値を設定した調査 - 政令指定都市で最低1,000、東京23区で400、令和3～5年度補正デジタル田園交付金TYPE2/3採択自治体及びスーパーシティ・デジタル田園健康特区で400、その他自治体は100を回収目標として設定
調査手法	モニターメール等による依頼の後、WEB調査画面にて回答していただくインターネット調査
対象地域	全国
対象者条件	18歳～89歳の男女
回収目標数／有効回答数	100,000 / 101,498
対象自治体数 (うち回答数100以上)	684団体 (668団体)
設問数	51問 (必須50問とオプション設問1問)
調査期間	2024年5月14日(火)～2024年5月20日(月)

出所)デジタル庁・一般社団法人スマートシティ・インスティテュート「地域幸福度(Well-Being)指標利活用ガイドブック」

図表 22 地域幸福度(Well-being)指標の主観指標・客観指標の一覧

No.	因子	主観指標 アンケート設問	客観指標 データ項目例
1	幸福度・満足度	現在、あなたはどの程度幸せですか。	
※	幸福度・満足度	今から5年後、あなたはどの程度幸せだと思いますか。	
2	幸福度・満足度	現在、あなたの住んでいる地域の暮らしにどの程度満足していますか。	
3	幸福度・満足度	あなたの町内（集落）の人々は、大体において、どれぐらい幸せだと思いますか。	
4	幸福度・満足度	自分だけでなく、身近なまわりの人も楽しい気持ちでいると思う	
5	医療・福祉	暮らしている地域は、医療機関が充実している	特定健診実施率、可住地面積あたり医療施設数、人口あたり
6	医療・福祉	私の暮らしている地域では、介護・福祉施設のサービスが受けやすい	児童福祉施設数
7	買物・飲食	暮らしている地域は、日常の買い物にまったく不便がない	可住地面積あたり小売店舗数、可住地面積あたりコンビニエ
8	買物・飲食	私の暮らしている地域では、飲食を楽しむ場所が充実している	ンスストア数
9	住宅環境	自宅には、心地のいい居場所がある	平均地価（住宅地）、一戸建の持ち家の割合
10	住宅環境	【逆】自宅の近辺では、騒音に悩まされている	
11	住宅環境	私の暮らしている地域では、適度な費用で住居を確保できる	
12	移動・交通	私の暮らしている地域では、公共交通機関で、好きな時に好きなところへ移動ができる	可住地面積あたり駅・バス停、平均通勤時間、道路整備率
13	遊び・娯楽	私の暮らしている地域には、楽しい時間を過ごせる娯楽施設がある	余暇時間、教養・娯楽サービス支出、可住地面積あたり映画館数
14	子育て	私の暮らしている地域では、子育て支援・補助が手厚い	最寄りの保育所までの距離が1000m未満の住宅の割合、学童
15	子育て	私の暮らしている地域では、子どもたちがいきいきと暮らせる	保育設置率、人口あたり待機児童数
16	初等・中等教育	私の暮らしている地域では、教育環境（小中学校）が整っている	小学校数（可住地面積100kmあたり）、教員一人あたりの児童生徒数、学力水準
17	初等・中等教育	私の暮らしている地域では、通学しやすい場所に学校がある	
18	地域行政	暮らしている地域の行政は、地域のことを真剣に考えていると思う	人口あたり図書館帯出者数、人口あたり体育施設利用者数、
19	地域行政	暮らしている地域の公共施設は使い勝手がよく便利である	財政力指数
20	デジタル生活	私の暮らしている地域では、行政サービスのデジタル化が進んでいる	自治体DX指数、自治体オープンデータの有無、共創モデル実
21	デジタル生活	私の暮らしている地域では、仕事や日常生活の場でデジタルサービスを利用しやすい	証プロジェクト
22	公共空間	暮らしている地域の雰囲気は、自分にとって心地よい	可住地面積あたり都市公園数、可住地面積あたり市民農園面
23	公共空間	私の暮らしている地域には、まちなか、公園、川沿い等で、心地よく歩ける場所がある	積
24	都市景観	私の暮らしている地域には、自慢できる都市景観がある	都市景観指数、景観条例の有無
25	自然景観	私の暮らしている地域には、自慢できる自然景観がある	自然景観指数、国立・国定・都道府県立公園の有無
26	自然の恵み	暮らしている地域では、身近に自然を感じることができる	食料供給ポテンシャル、水供給ポテンシャル、緑地へのアクセ
27	自然の恵み	暮らしている地域の空気や水は澄んでいてきれいだと感じる	セス度
28	環境共生	私の暮らしている地域では、リサイクルや再生可能エネルギー活用等、環境への取り組みが盛んである	公害苦情件数（典型7公害）、人口あたりゴミ排出量
29	自然災害	私の暮らしている地域では、防災対策がしっかりしている	【ハザードKPI】外水氾濫危険度、【ハザードKPI】土砂災害危険度、指定緊急避難場所の災害種別指定適切度
30	事故・犯罪	私の暮らしている地域は、防犯対策（交番・街燈・防犯カメラ・住民の見守り等）が整っており、治安がよい	人口あたり交通事故件数、人口あたり刑法犯認知件数
31	事故・犯罪	私の暮らしている地域では、歩道や信号が整備されていて安心である	
32	地域とのつながり	私は、同じ町内（集落）に住む人たちを信頼している	高齢単身世帯の割合、人口あたりNPOの数、地域への移住・
33	地域とのつながり	私の暮らしている地域では、地域活動（自治会・地域行事・防災活動等）への市民参加が盛んである	関係人口創出プロジェクトの数
34	地域とのつながり	暮らしている地域には、困ったときに相談できる人が身近にいる	
35	地域とのつながり	私は、町内（集落）の人が困っていたら手助けをする	
36	地域とのつながり	私は、この町内（集落）に対して愛着を持っている	
37	多様性と寛容性	この町内（集落）には、どんな人の意見でも受け入れる雰囲気がある	人口あたり外国人人口、子どもに関する条例の有無、バリア
38	多様性と寛容性	私は、見知らぬ他者であっても信頼する	フリー基本構想の有無
39	多様性と寛容性	私は、町内（集落）の人が自分をどう思っているかが気になる	
40	多様性と寛容性	私の暮らしている地域には、女性が活躍しやすい雰囲気がある	
41	多様性と寛容性	私の暮らしている地域には、若者が活躍しやすい雰囲気がある	
42	自己効力感	自分のことを好ましく感じる	都道府県知事選投票率、都道府県議会投票率～
43	健康状態	私は、身体的に健康な状態である	健康寿命(平均自立期間)(男性)、健康寿命(平均自立期間)(女
44	健康状態	私は、精神的に健康な状態である	性)
45	文化・芸術	暮らしている地域は、文化・芸術・芸能が盛んで誇らしい	従業者数における芸術家・著述家等の割合、国宝・重要文化
46	文化・芸術	将来生まれてくる世代のために、良い環境や文化を残したい	財（建造物）の数、日本遺産の数
47	教育機会の豊かさ	私の暮らしている地域では、学びたいことを学べる機会がある	可住地面積あたり私立・国立中高一貫校数、大学進学率
48	雇用・所得	私の暮らしている地域では、やりたい仕事を見つけやすい	完全失業率、有効求人倍率、可処分所得、高齢世帯の相対的
49	雇用・所得	私の暮らしている地域では、適切な収入を得るための機会がある	貧困率
50	事業創造	暮らしている地域には、新たな事に挑戦・成長するための機会がある	新規法人の割合、従業者あたりコワーキングスペースの数

出所）一般社団法人スマートシティ・インスティテュート「地域幸福度(Well-Being)指標」よりMRA作成

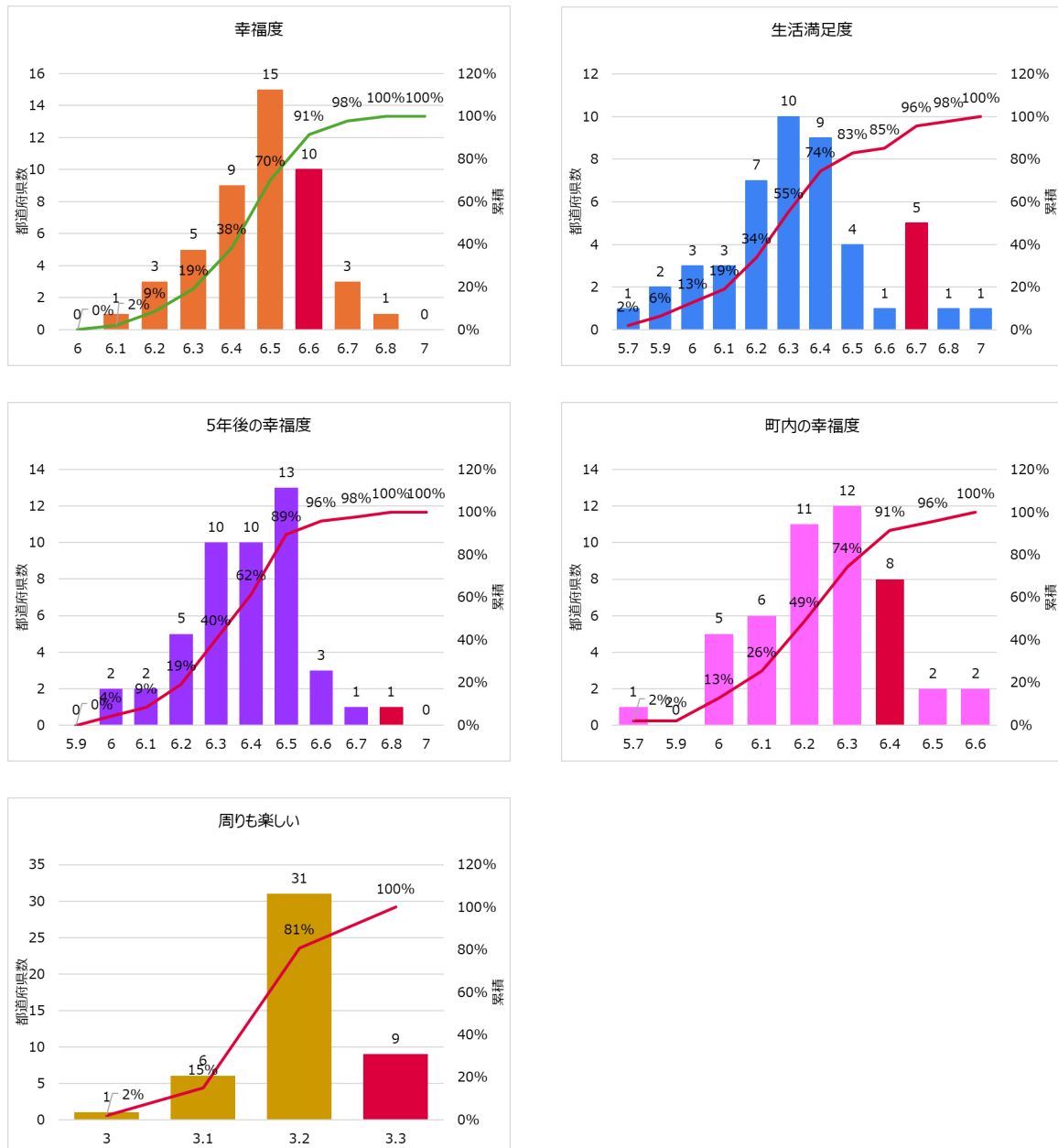
（2）沖縄県の主観的要素に関する基礎データ

地域幸福度(Well-being)指標ダッシュボードにて公開されている沖縄県の総合指標を確認すると、沖縄県の総合指標の平均値は、「幸福度」が6.6、「生活満足度」が6.7、「5年後の幸福度」が6.8、「町

内の幸福度」が 6.4、「周りも楽しい」が 3.3(周りも楽しいのみ 5 段階評価)となっていた。

総合指標については偏差値化されておらず、実数での表示であるため全国との比較が難しい。しかし、47 都道府県の総合指標の平均値がどのように分布しているかをみると、沖縄県(グラフ中の赤い棒に含まれる)は「幸福度」、「生活満足度」、「5 年後の幸福度」、「町内の幸福度」では上位に位置し、特に「5 年後の幸福度」は全国で最上位となっていることが分かった(図表 23)。

図表 23 地域幸福度(Well-being)指標の総合指標の都道府県別平均値の分布(2024 年度)



※ 総合指標はいずれも 10(とても幸せ)～0(とても不幸)の 11 段階評価。「周りも楽しい」のみ、5(非常にあてはまる)～1(全くあてはまらない)の 5 段階評価。グラフの赤い棒は沖縄県が含まれる。

出所)一般社団法人スマートシティ・インスティテュート「地域幸福度(Well-Being)指標」より MRA 作成

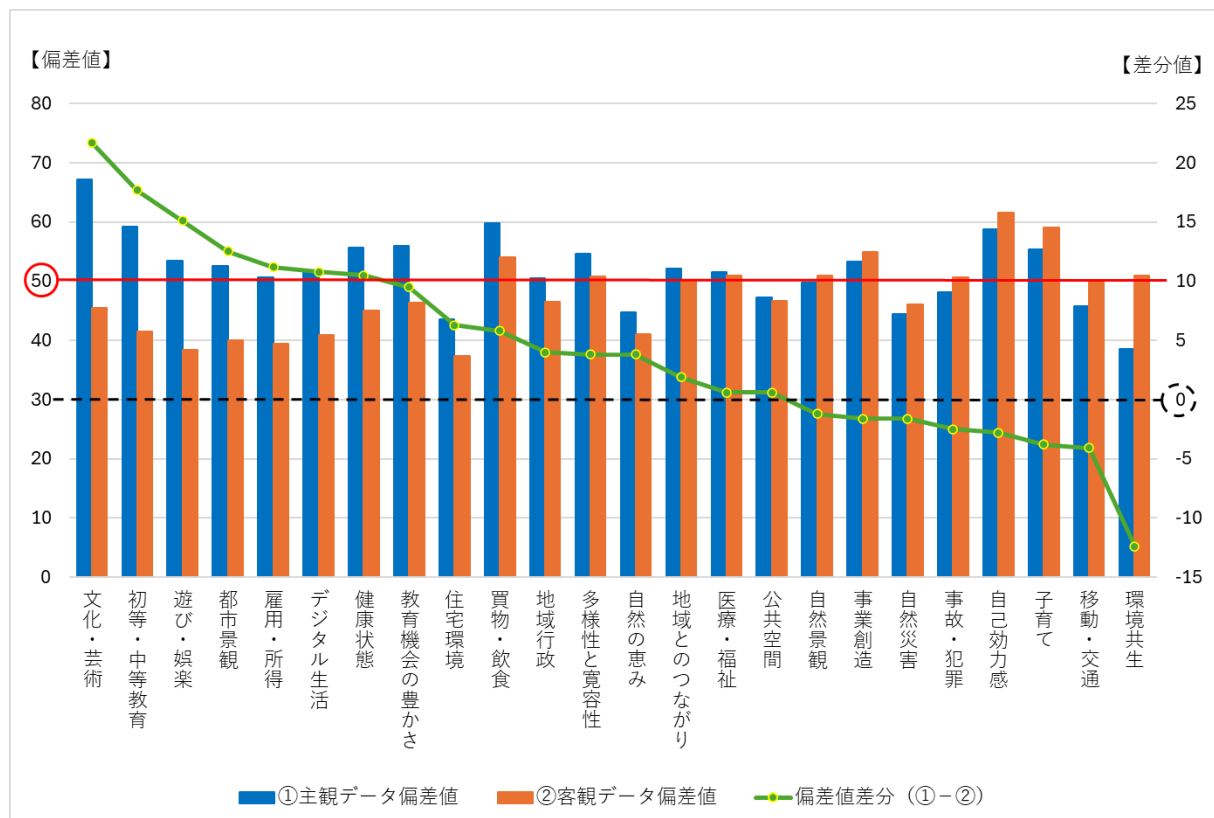
(3) 沖縄県の主観的・客観的要素に関するデータ分析

地域幸福度(Well-being)指標は、主観指標と客観指標は偏差値で示され、偏差値 50 が全国平均値である。主観指標と客観指標は同じ 24 のカテゴリーがあり、各カテゴリーで偏差値を見ると、主観指標では、「文化・芸術」、「買物・飲食」、「初等・中等教育」、「自己効力感」で偏差値 50 を 10 ポイント程度上回り、全国と比較しても高い値となっていた。「文化・芸術」は、沖縄県民が文化や伝統を重視する価値観を反映していると推察する。また、「自己効力感」は自分を好ましく感じるかであり、沖縄県の大人について自己効力感が全国よりも高いことがわかる。

客観指標では、「自己効力感」と「子育て」で全国よりも偏差値が高くなっていた。客観指標での「自己効力感」は首長選挙や市区町村議会投票率から作成された政治観化に関する指標であり、沖縄県が米軍基地問題をはじめ政治テーマに敏感であることを表していると推察する。

客観指標より主観指標の偏差値が高い項目は、順に、「文化・芸術」、「初等・中等教育」、「遊び・娯楽」、「都市景観」、「雇用・所得」であり、逆に客観指標のより主観指標の偏差値が低い項目は、「環境共生」、「移動・交通」、「子育て」であった(図表 24)。

図表 24 沖縄県の地域幸福度(Well-being)指標の主観・客観指標のカテゴリー別偏差値
(2024 年度)



※ 右軸の赤線(実線)は偏差値 50 (=全国値)を示す。左軸の黒線(点線)は沖縄県の主観指標の偏差値と客観指標の偏差値の差分(乖離)を示す

出所)一般社団法人スマートシティ・インスティテュート「地域幸福度 Well-Being)指標」より MRA 作成

2.2.3 沖縄県「沖縄こども調査」

(1) 調査の概要

沖縄県「沖縄こども調査」²⁰は、沖縄県のこども及びその保護者の生活実態や支援ニーズ等の把握・分析を行い、こどもの貧困対策の効果的な実施や、施策の評価に活用することを目的に実施されている。

「沖縄こども調査」は平成 27 年度から各年度によって対象年齢や対象者を変え、「小中学生調査」、「0-17 歳調査」、「高校生調査」、「未就学児調査」を実施している。

今回は、本事業のアンケート調査の対象年齢と合致する、「小中学生調査」「高校生調査」を対象に整理する。

1) 小中学生調査

小中学生調査は、平成 27 年度・平成 30 年度・令和 3 年度・令和 6 年度の計 4 回実施しており、調査対象者は、小学 1 年生の保護者、小学 5 年生の児童・保護者、中学 2 年生の生徒・保護者である。

最新年度の「令和 6 年度沖縄こども調査(小中学生調査)」の概要は、図表 25 のとおりである。

図表 25 「令和 6 年度沖縄こども調査(小中学生調査)」の調査概要

調査実施期間	2024 年 9 月 14 日～2024 年 9 月 30 日
調査方法	市町村別の人口構成比をもとに県内の小中学校(県内私立学校及び県立中高一貫校除く)を選定。学校を通じて、対象校に在籍する小学 1 年生、小学 5 年生、中学 2 年生の児童・生徒及びその保護者へ調査票の配布を行い、密封された状態で回収した調査票を学校が取りまとめ、受託事業者へ送付。
調査対象者	小学 1 年生の保護者、小学 5 年生の児童・保護者、中学 2 年生の児童・保護者

出所)沖縄県「令和 6 年度沖縄こども調査小中学生調査報告書」より MRA 作成

「令和 6 年度沖縄こども調査(小中学生調査)」の質問概要は図表 26 のとおりであり、経済状況やふだんの暮らし等の客観的な設問だけでなく、自己肯定感等の主観的な設問も含まれている。

図表 26 「令和 6 年度沖縄こども調査(小中学生調査)」の質問概要

分類	質問内容(★は主観的要素に関する質問)
保護者の状況(保護者票のみ)	母親の就労状況、母親の労働時間、母親の就労収入、働いていない理由(母親)、父親の就労状況、父親の労働時間、父親の就労収入、母親・父親の学歴
学校・学習状況	学校での学習★、学校以外での学習状況★、進路(児童・生徒)、進路(保護者)
ふだんの暮らし(児童・生徒)	部活動★、食事・学校生活★、ゲーム・SNS などの利用や屋外での運動★、家事や家族の世話★、逆境体験、相談相手、暮らしの満足度、自己肯定感★
ふだんの暮らし(保護者)	ふだんの暮らし・物価高騰の影響、貯蓄、食料・衣服が買えなかった経験、滞納経験、学校教育費のなかで経済的負担が大きいもの、相談相手、逆境体験、こどもを受診させられなかった経験、抑うつ傾向(心理的ストレス)
所有物・体験の欠如	所有物の欠如、こどものための支出(保護者票のみ)、こどもの体験(保護者票のみ)、保護者自身の所有物の欠如(保護者票のみ)
制度等の利用状況	放課後児童クラブの利用(小学 1 年生保護者)、就学援助制度、生活保護／生活困窮者の自立支援相談窓口／生活福祉資金貸付金、児童扶養手当／母子父子寡婦福祉資金貸付金、子育て支援に関する情報をどう受け取りたいか
こどもまんなか社会にむけて	大人に取り組んでほしいこと(児童票・生徒票のみ)、子どもの権利条約について(児童票・生徒票のみ)、子育てに温かい社会に向かっているか(保護者票のみ)、保護者自身の将来について

出所)沖縄県「令和 6 年度沖縄こども調査小中学生調査報告書」より MRA 作成

²⁰ 沖縄県「沖縄こども調査」(<https://www.pref.okinawa.jp/kyoiku/jido/1018770/1031222.html>) (2026/3/24 閲覧)

調査の特徴としては、一定の所得で「困窮層」と「非困窮層」に区分し、それぞれで集計・分析を行っている点である。経済状況による影響を分析するため、世帯人数と世帯収入(税金や社会保険料の額を差し引いた手取り収入)から等価可処分所得を算出し(世帯の可処分所得(手取り収入)を世帯人数の平方根で割った額)、世帯の困窮程度を「困窮層(低所得層Ⅰ)」と「非困窮層(低所得層Ⅱ、一般層)」の区分で分類している。分類にあたっては、厚生労働省の「2022 年国民生活基礎調査」における貧困線である 127 万円に、昨今の物価高騰の影響を考慮し、消費者物価指数の変動から算出された係数(1.0581)をかけた 134 万円としている。

2) 高校生調査

高校生調査は、平成 28 年度・令和元年度・令和 4 年度の計 3 回実施されており、調査対象者は、県立高等学校に通う高校 2 年生(22 歳以上を除く)の生徒及びその保護者である。

最新年度の「令和 4 年度沖縄子ども調査(高校生調査)」の概要は、図表 27 のとおりである。

図表 27 「令和 4 年度沖縄子ども調査(高校生調査)」の調査概要

調査実施期間	2022 年 11 月 14 日(月)～11 月 28 日(月)
調査方法	県立高等学校を通じて対象者に調査票を配布・回収
調査対象者	県立高等学校に通う高校 2 年生(22 歳以上を除く)の生徒及びその保護者 *ただし、通信制課程に在籍する者を除く

出所)沖縄県「令和 4 年度沖縄子ども調査(高校生調査)報告書」より MRA 作成

また、「令和 4 年度沖縄子ども調査(高校生調査)」の質問概要については図表 28 のとおりであり、小中学生調査と同じく、経済状況やふだんの暮らし等の客観的な設問だけでなく、自己肯定感等の主観的な設問も含まれている。高校生に対する調査であるため、小中学生とは異なり、高校卒業後の進路やアルバイトに関する質問もある。

図表 28 「令和 4 年度沖縄子ども調査(高校生調査)」の質問概要

分類	質問内容(★は主観的要素に関する質問)
保護者の働き方(保護者票のみ)	母親の就労状況、母親の労働時間、母親の就労収入、母親の勤務状況、父親の就労状況、父親の労働時間、父親の勤務状況、新型コロナウイルス感染症による影響 — 就労など、新型コロナウイルス感染症による影響 — 世帯収入
学校生活	学校での生活、部活動、学校の授業など★、勉強時間、通学(公共交通機関の利用、自家用車での送迎)、高校進学時の通学交通費の負担
高校卒業後の進路	進路希望の状況(生徒票のみ)、進路の理想と現実(生徒票のみ)、新型コロナウイルスによる進路選択への影響(生徒票のみ)、保護者の考える進路、進路・成績・学力、ジェンダーと進路希望、高等教育の修学支援新制度
アルバイト	アルバイトの状況、勤務日数、勤務時間、収入と使途
ふだんの暮らし(保護者)	現在の暮らし、食料・衣料が買えなかった経験、滞納経験、住宅、相談相手、養育費、学歴、15 歳の頃の暮らし向き、逆境体験、こどもをもってからの経験
ふだんの暮らし(生徒)	現在の暮らし、毎日の生活、SNS などの利用★、家事や家族の世話★、会話の相手、自分自身について、逆境体験
高校生・保護者の生活水準(物品の所有や体験の状況)	所有物の欠如、こどものための支出、こどもの体験(保護者票のみ)、所有物の欠如(保護者票のみ)、保護者自身の所有物の欠如(保護者票のみ)
健康	受診抑制、ワクチン接種、ストレスコーピング、抑うつ、生徒の健康状態、食、BMI
制度の利用状況	奨学金、大学等進学促進事業、高校生進学チャレンジ支援事業、就学援助、生活福祉資金貸付金、生活困窮者の自立支援相談窓口、生活保護、母子父子寡婦福祉資金貸付金

出所)沖縄県「令和 4 年度沖縄子ども調査高校生調査報告書」より MRA 作成

調査の特徴としては、一定の所得で「困窮層」と「非困窮層」に区分し、それぞれで集計・分析を行っている点である。経済状況による影響を分析するため、世帯の人数と世帯収入(税金や社会保険料の額を差し引いた手取り収入)から等価可処分所得(世帯の可処分所得(手取り収入)を世帯人数の平方根で割った額)を算出し、世帯の困窮程度を「低所得層Ⅰ」、「低所得層Ⅱ」、「一般層」の 3 つの区分に分類している。分類にあたっては、厚生労働省の「2019 年国民生活基礎調査」における貧困線を基準にしている。

(2) 主観的・客観的要素に関する基礎データ

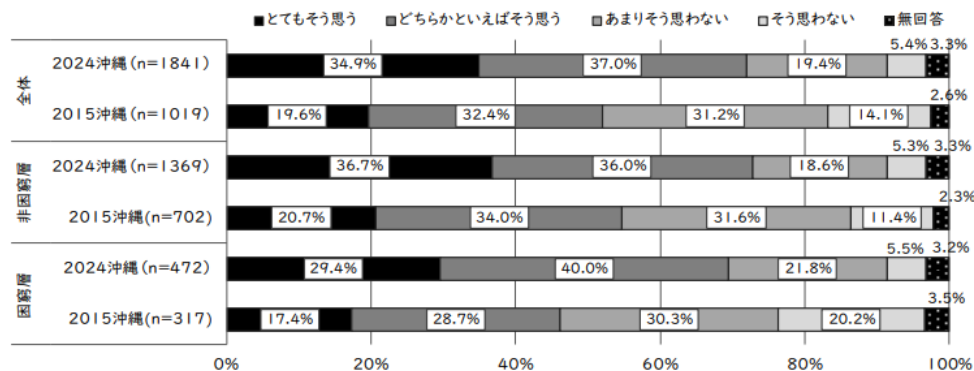
小中学生調査及び高校生調査において、幸福感や自己肯定感に関わる設問に着目し、調査報告書より該当する図表を引用する。

1) 小中学生調査

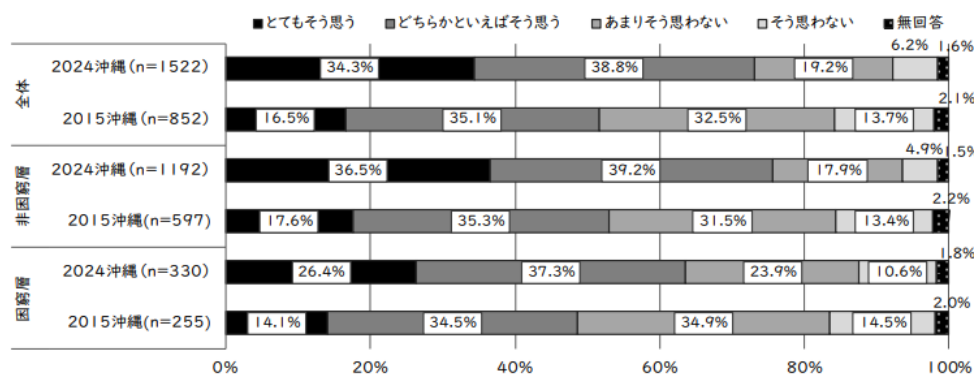
自己肯定感に関して、「自分は価値のある人間だと思う」という質問では、「とてもそう思う」と「どちらかといえばそう思う」を合わせた割合は、小 5 は全体 71.9% (非貧困層 72.7%、貧困層 69.4%)、中 2 は全体 73.1% (非貧困層 75.7%、貧困層 63.7%) であり、どの層も 2015 年から 2024 年で増加し、非困窮層と困窮層の差は、小 5 は縮小する一方で、中 2 は拡大していた(図表 29)。

図表 29 自己肯定感に関する設問の集計結果(自分は価値のある人間だと思う)
(沖縄県小中学生調査)

図A-4-3 【小5児童】自分は価値のある人間だと思う



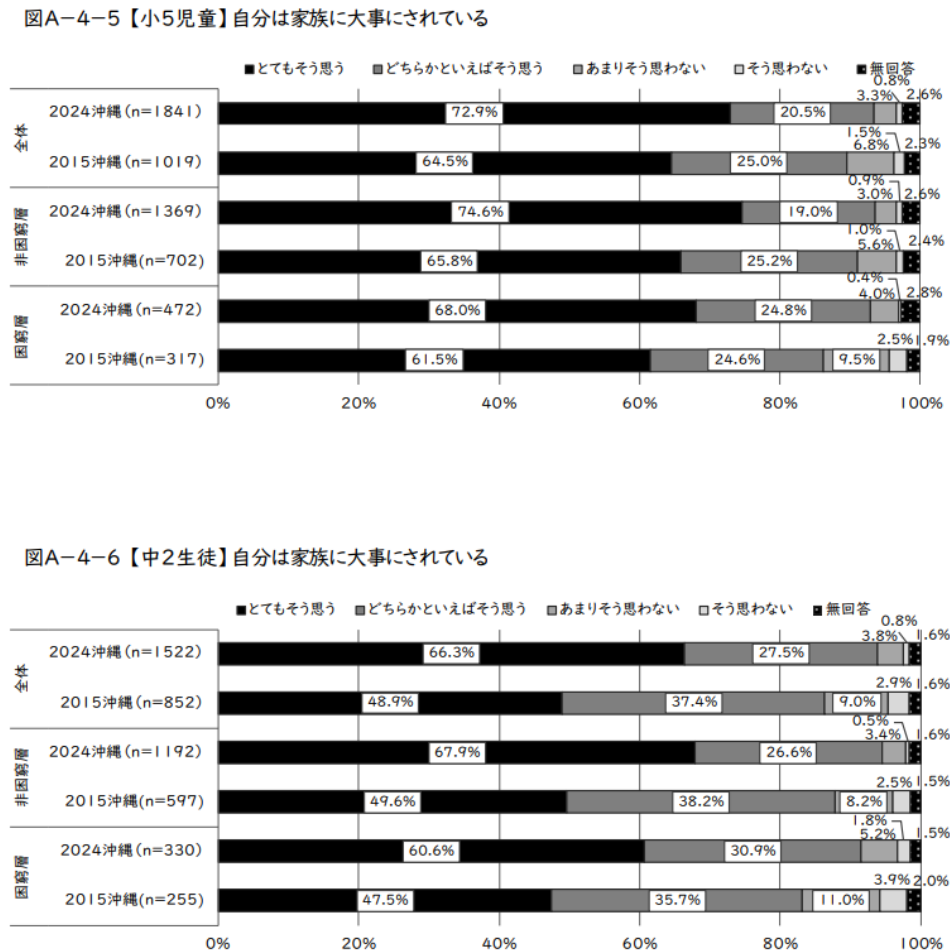
図A-4-4 【中2生徒】自分は価値のある人間だと思う



出所)沖縄県「令和 6 年度沖縄こども調査小中学生調査報告書」

「自分は家族に大切にされている」という質問では、「とてもそう思う」と「どちらかといえばそう思う」を合わせた割合は、小 5 は全体 93.4%(非貧困層 93.6%、貧困層 92.8%)、中 2 は全体 93.8%(非貧困層 94.5%、貧困層 91.5%)であり、どの層も 2015 年から 2024 年で増加し、非困窮層と困窮層の差は、小 5・中 2 とともに縮小した(図表 30)。

図表 30 自己肯定感に関する設問の集計結果(自分は家族に大事にされている)
(沖縄県小中学生調査)

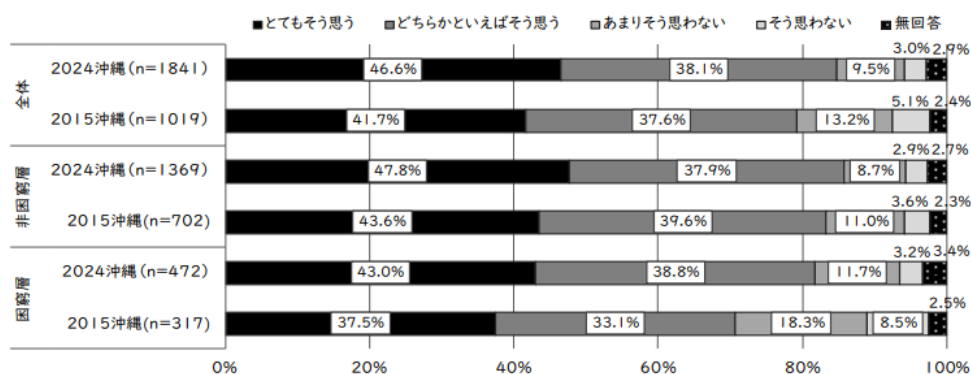


出所)沖縄県「令和 6 年度沖縄こども調査小中学生調査報告書」

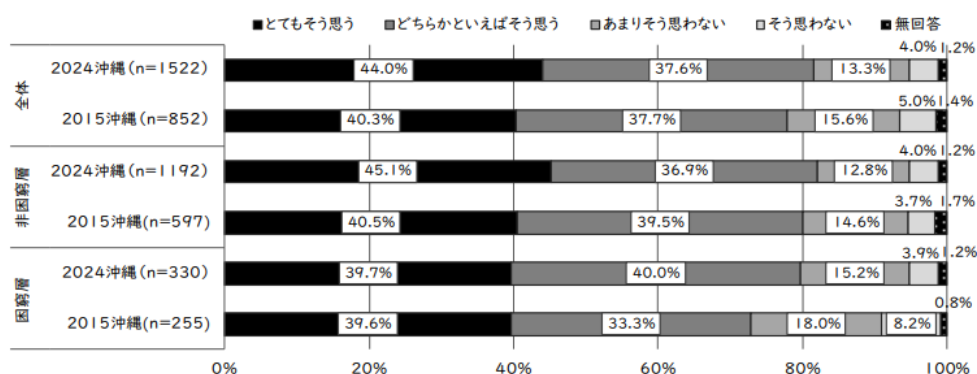
「がんばれば、むくわれる」という質問では、「とてもそう思う」と「どちらかといえばそう思う」を合わせた割合は、小 5 は全体 84.7%(非貧困層 85.7%、貧困層 81.8%)、中 2 は全体 81.6%(非貧困層 82.0%、貧困層 79.7%)であり、どの層も 2015 年から 2024 年で増加し、非困窮層と困窮層の差は、小 5・中 2 とともに縮小していた(図表 31)。

図表 31 自己肯定感に関する設問の集計結果(がんばれば、むくわれる)(小中学生)

図A-4-1【小5児童】がんばれば、むくわれる



図A-4-2【中2生徒】がんばれば、むくわれる

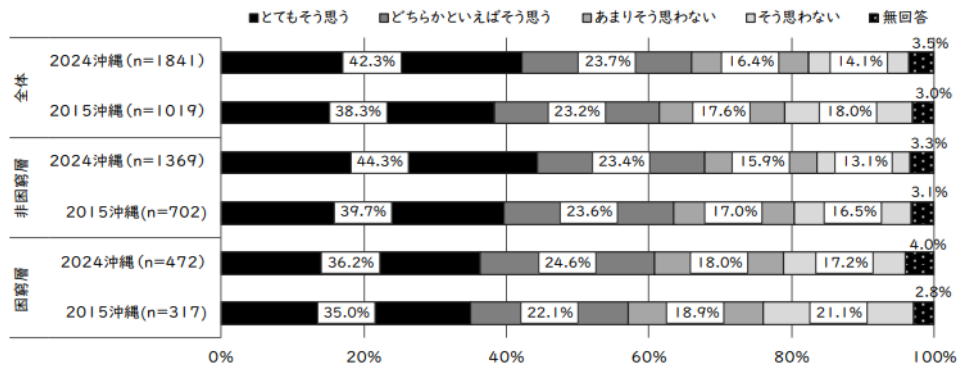


出所)沖縄県「令和 6 年度沖縄こども調査小中学生調査報告書」

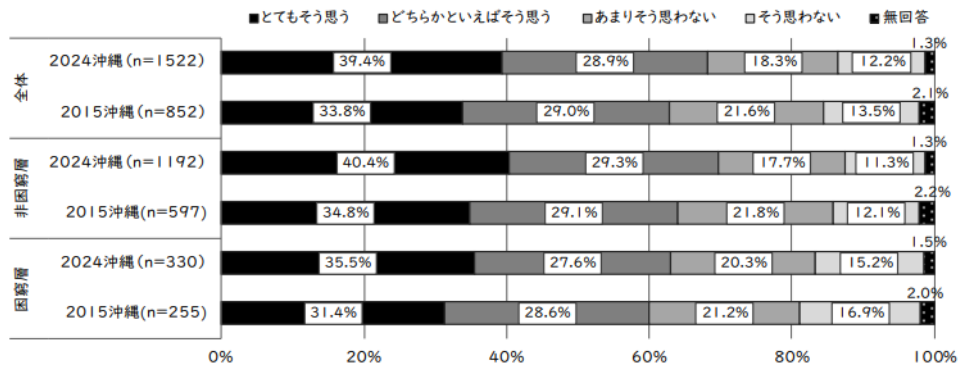
「孤独を感じることはない」という質問では、「とてもそう思う」と「どちらかといえばそう思う」を合わせた割合は、小 5 は全体 66.0% (非貧困層 67.7%、貧困層 60.8%)、中 2 は全体 68.3% (非貧困層 69.7%、貧困層 63.1%) であり、どの層も 2015 年から 2024 年で増加し、非困窮層と困窮層の差は、小 5・中 2 とともに縮小していた(図表 32)。

図表 32 孤独感に関する設問の集計結果(孤独を感じることはない)(沖縄県小中学生調査)

図A-4-9【小5児童】孤独を感じることはない



図A-4-10【中2生徒】孤独を感じることはない

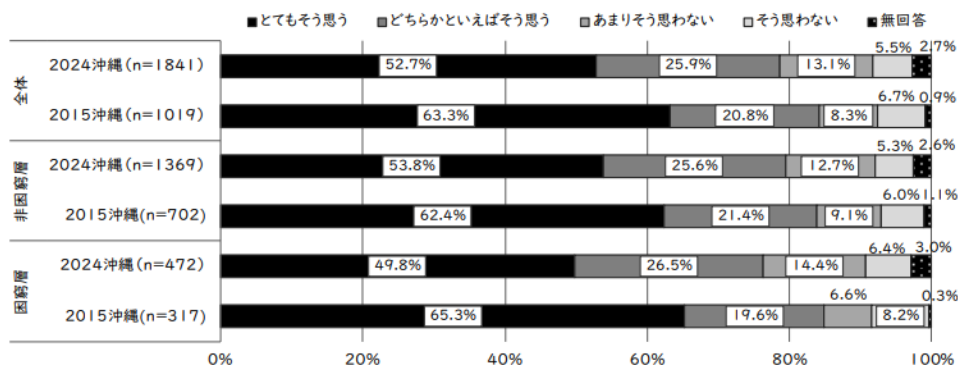


出所) 沖縄県「令和 6 年度沖縄こども調査小中学生調査報告書」

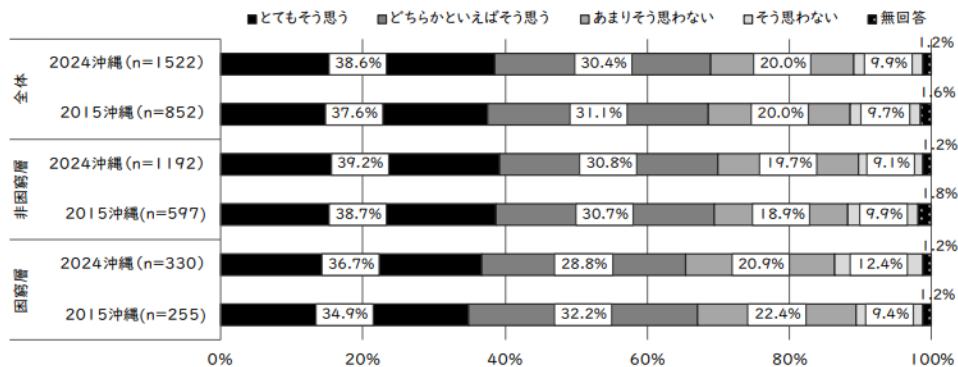
「自分の将来が楽しみだ」という質問では、「とてもそう思う」と「どちらかといえばそう思う」を合わせた割合は、小 5 は全体 78.6% (非貧困層 79.4%、貧困層 76.3%)、中 2 は全体 69.0% (非貧困層 70.0%、貧困層 65.5%) であり、小 5 ではどの層も 2015 年から 2024 年で減少し、中 2 では非貧困層では微増した一方で、貧困層で減少していた。非困窮層と困窮層の差は、小 5 で拡大していた(図表 33)。

図表 33 自分の将来に関する設問の集計結果(沖縄県小中学生調査)

図A-4-11 【小5児童】自分の将来が楽しみだ



図A-4-12 【中2生徒】自分の将来が楽しみだ



出所)沖縄県「令和 6 年度沖縄こども調査小中学生調査報告書」

2) 高校生調査

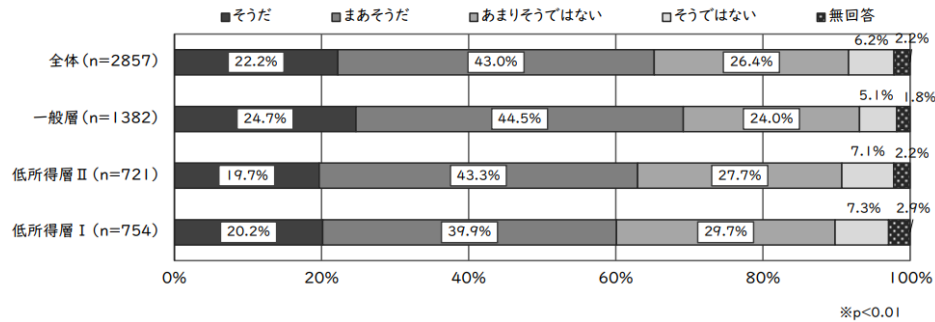
自己肯定感に関して、「私は自分は価値のある人間だと思う」という質問では、「そうだ」と「まあそうだ」を合わせた割合は、全体 65.2%、一般層 69.2%、低所得層Ⅱ 63.0%、低所得層Ⅰ 60.1% であり、経済状況による有意差があった(図表 34)。

「私は努力すればだいたいこのことができると思う」という質問では、「そうだ」と「まあそうだ」を合わせた割合は、全体 72.6%、一般層 75.9%、低所得層Ⅱ 69.5%、低所得層Ⅰ 69.3% であり、経済状況による有意差があった(図表 35)。

また、「私は辛いことがあっても乗り越えられると思う」は、全体 73.1%、一般層 76.6%、低所得層Ⅱ 71.8%、低所得層Ⅰ 67.9% であり、経済状況による有意差があった(図表 36)。

図表 34 自己肯定感に関する設問の集計結果(私は価値のある人間だと思う)
(沖縄県高校生調査)

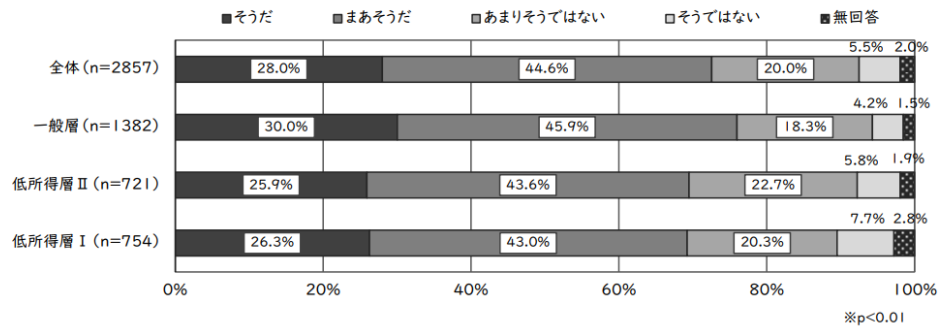
図6-6-1 【生徒】私は価値のある人間だと思う



主所)沖縄県「令和4年度沖縄こども調査高校生調査報告書」

図表 35 自己肯定感に関する設問の集計結果(私は努力すれば大体のことができると思う)
(沖縄県高校生調査)

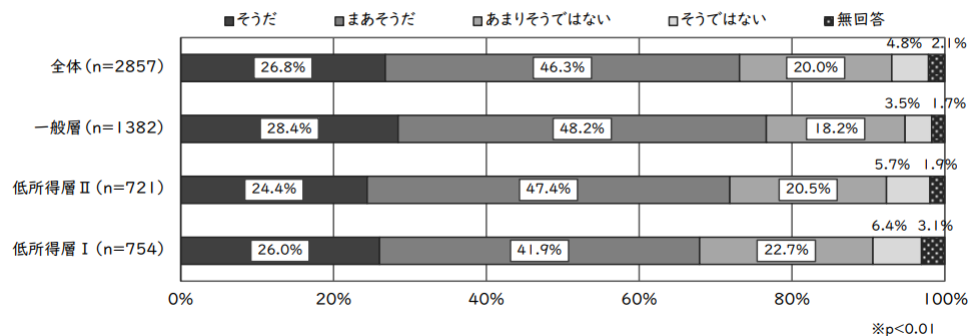
図6-6-4 【生徒】私は努力すれば大体のことができると思う



出所)沖縄県「令和4年度沖縄こども調査高校生調査報告書」

図表 36 自己肯定感に関する設問の集計結果(辛いことがあっても乗り越えられると思う)
(沖縄県高校生調査)

図6-6-5 【生徒】私は辛いことがあっても乗り越えられると思う



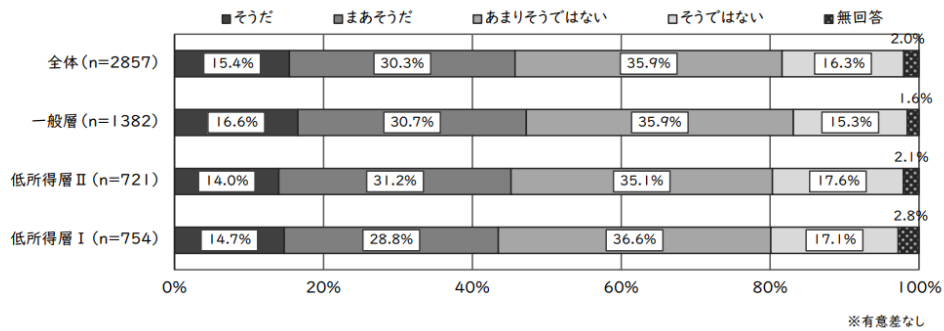
出所)沖縄県「令和4年度沖縄こども調査高校生調査報告書」

なお、「私はいまの自分に満足している」や、「私は、何をやってもうまくいかないことが多い」、「私には

心を打ち明けられる友だちがいる」という質問については、経済状況による有意差はない(図表 37、図表 38、図表 39)。

図表 37 自己肯定感に関する設問の集計結果(今の自分に満足している)
(沖縄県高校生調査)

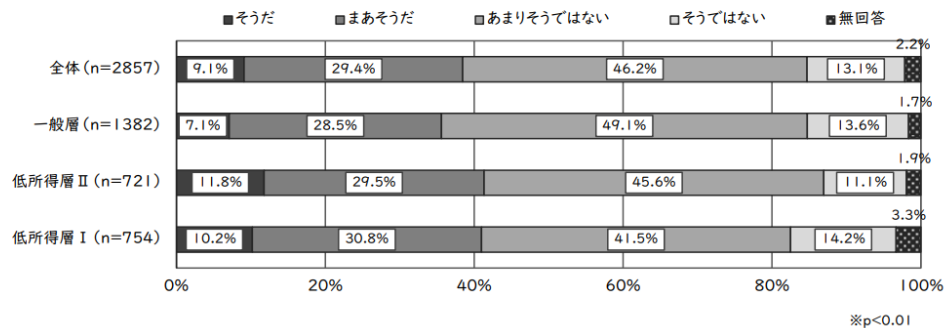
図6-6-3 【生徒】私はいまの自分に満足している



出所)沖縄県「令和4年度沖縄こども調査高校生調査報告書」

図表 38 自己肯定感に関する設問の集計結果(私は、何をやってもうまくいかないことが多い)
(沖縄県高校生調査)

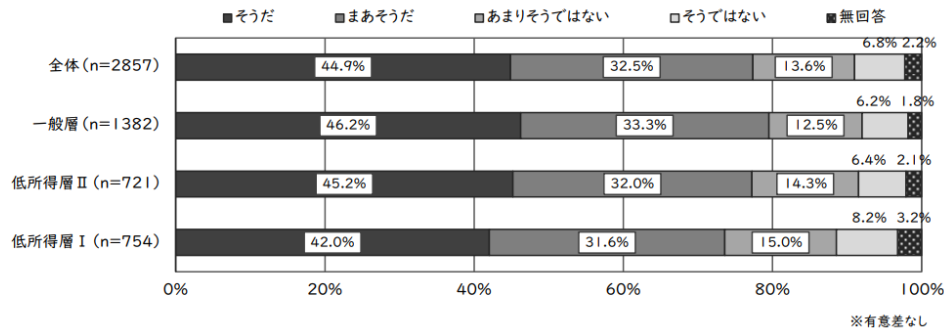
図6-6-8 【生徒】私は、何をやってもうまくいかないことが多い



出所)沖縄県「令和4年度沖縄こども調査高校生調査報告書」

図表 39 自己肯定感に関する設問の集計結果(私には心を打ち明けられる友だちがいる)
(沖縄県高校生調査)

図6-6-9【生徒】私には心を打ち明けられる友だちがいる



出所)沖縄県「令和4年度沖縄こども調査高校生調査報告書」

2.2.4 こども家庭庁「こども・若者の意識と生活に関する調査」

(1) 調査の概要

こども家庭庁が実施している「こども・若者の意識と生活に関する調査」²¹(図表 40、図表 41)は、こども・若者を取り巻く現状及び課題を主観的な感情・客観的な行動等から把握し、国及び地方公共団体によるこども・若者育成支援施策や家庭・学校・地域・職域等が行っているこども・若者育成支援を改善・充実するための基礎資料を得ることを目的としている。令和4年度に実施されたこの調査では、回答者の年齢層を3つに区分し、それぞれ別種の調査票を用いた。

図表 40 「こども・若者の意識と生活に関する調査(令和4年度)」の概要

調査対象者	①10～39歳の男女 20,000人(うち10～14歳 2,813人、15～39歳 17,187人) ②40歳～69歳の男女 10,000人 ※令和4年4月1日時点
抽出方法	層化二段無作為抽出法 ①層化:全国の市町村を、都道府県を単位として11地区、各地区は都市規模によって25分類、計65層 ②調査地点の配分:地区・都市規模別各層における母集団の大きさにより人口比例配分
調査方法	郵送法(オンライン回答併用)
調査票の種類	3種類(10歳～14歳対象調査、15歳～39歳対象調査、40歳～69歳対象調査)
設問数	20～30問程度
有効回収数	10～39歳:8,555人、40～69歳:5,214人 (うち10～14歳:1,520人、15～39歳:7,035人)
調査期間	令和4年11月10日～25日(30日到着分まで)

出所)こども家庭庁「こども・若者の意識と生活に関する調査(令和4年度)」よりMRA作成

²¹ こども家庭庁、こども・若者の意識と生活に関する調査(令和4年度)
(<https://www.cfa.go.jp/resources/research/children-attitudes>)(2026/3/24 閲覧)

図表 41 こども・若者の意識と生活に関する調査における設問の概要
(10 歳～14 歳対象調査、15 歳～39 歳対象調査)

大項目	設問の一例 (※①10-14 歳対象調査、②15-39 歳対象調査)
幸福感・自己肯定感	今の自分が好きだ(①、②) うまくいかかわからないことにも意欲的に取り組む(①、②) あなたは、今、自分が幸せだと思いますか(①、②)
孤独感	あなたはどの程度、孤独であると感じることがありますか(①、②)
他者との関わり方	家族・親戚と会話やメール等をよくしている(①、②) 家族・親戚に何でも悩みを相談できる人がいる(①、②)
社会参加	社会のために役立つことをしたいと思いませんか(①、②)
将来像	自分の将来について明るい希望を持っていますか(①、②) あなたは 20 年後、どのようになっていると思いませんか(②)
普段の活動	普段自宅にいたときの活動[テレビを見る/介護・看護をする/インターネットをする 等](①、②)
外出状況	普段、仕事や学校で平日は毎日外出する/自宅からほとんど出ない(①、②)
困難に直面した経験等	ものごとがうまくいかず落ち込んだ経験があったと思いませんか、また、現在、ありますか(①) 社会生活や日常生活を円滑に送ることができなかった状態が改善した経験がありましたか(②)
相談・支援	相談したり助けてもらったりしやすい人[家族や親せき/学校の友達/誰にも相談したり、助けてもらったりしようと思わない](①、②) 誰にも相談したり、助けてもらったりしようと思わない理由(①、②)

出所)こども家庭庁「こども・若者の意識と生活に関する調査(令和 4 年度)」より MRA 作成

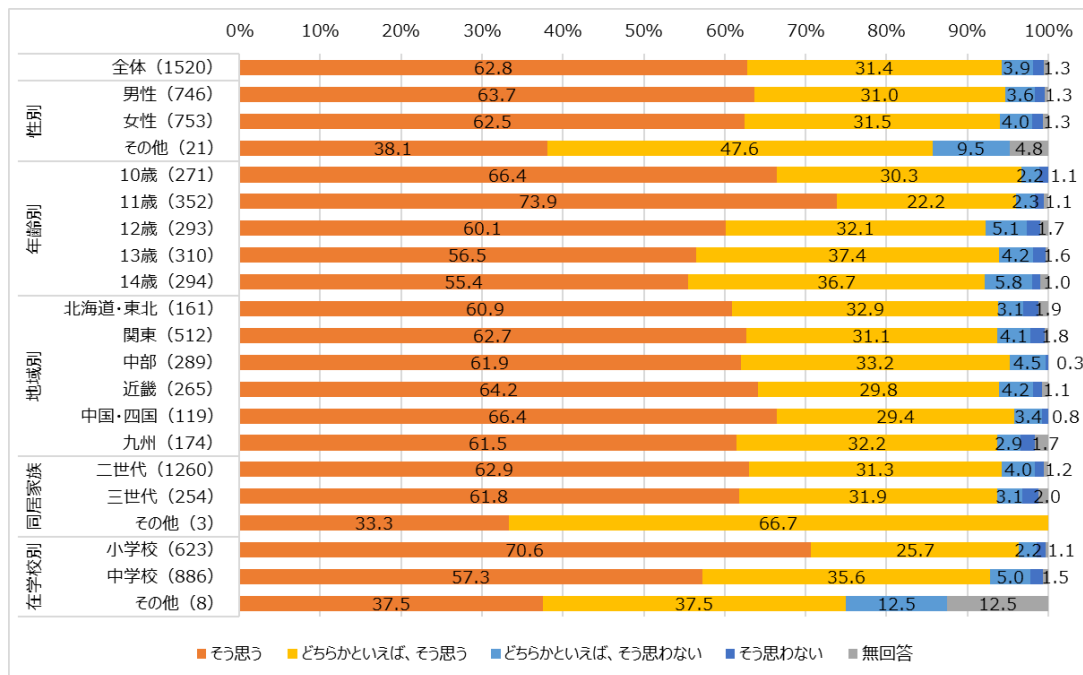
(2) 主観的・客観的要素に関する基礎データ

10 歳～14 歳を対象とした調査のうち本事業のアンケート調査にて参考とした、幸福感や自己肯定感に関わる設問に着目した。これら設問への回答が集計された各統計表²²を利用し、本事業のアンケート調査結果と比較できるように回答全体ならびに性別や年齢、地域等の階層ごとのデータを図示した。

幸福感に関して、「今、自分が幸せだと思うか」という質問では、「そう思う」の回答は、在学別別に小学校 70.6%、中学校 57.3%であり、小学校の方が 13.3 ポイント大きかった。年齢別では 11 歳から 14 歳にかけて「そう思う」の割合が数ポイントずつ小さくなっており、12～14 歳では全体よりも割合が低かった。地域別、性別や同居家族別において差は大きくない(図表 42)。

²² e-Stat「こども・若者の意識と生活に関する調査 統計表」(<https://www.e-stat.go.jp/stat-search/files?page=1&toukei=00100120&tstat=000001203620>) (2025/9/5 閲覧)

図表 42 幸福感に関する設問の集計結果(10～14 歳対象調査)



※ 問2 あなたは、今、自分が幸せだと思いますか。あなたの実感をお答えください。(SA)
出所)こども家庭庁「こども・若者の意識と生活に関する調査(令和4年度)」よりMRA作成

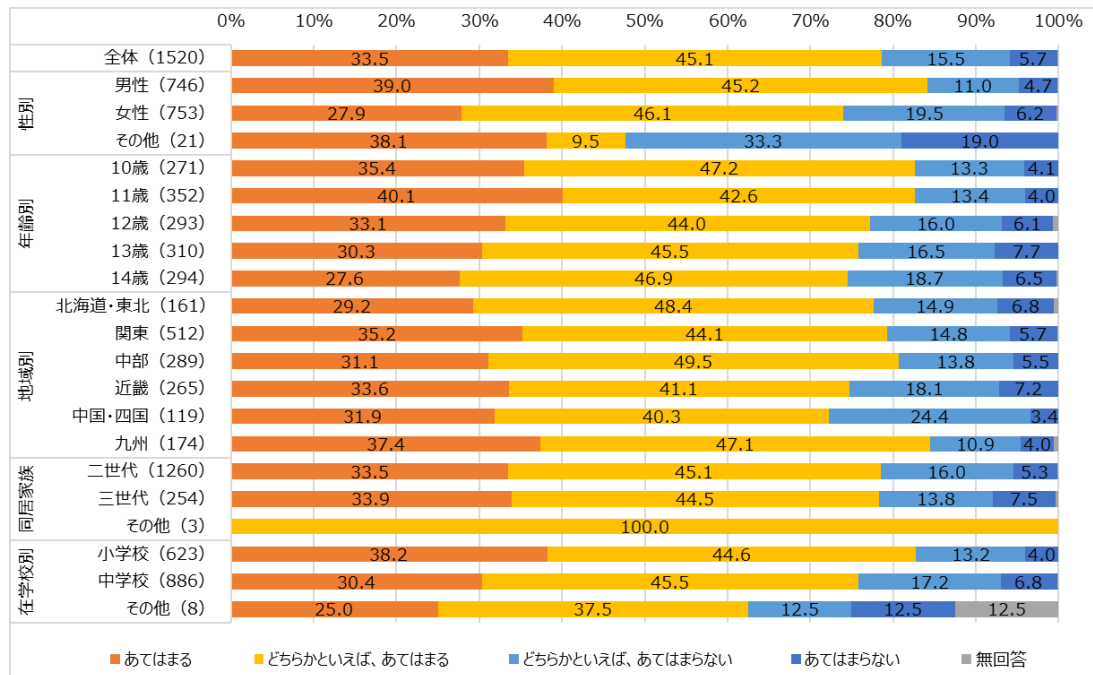
自己肯定感に関して、「今の自分が好きだ」という質問では、「あてはまる」の回答は、在学学校別に小学校 38.2%、中学校 30.4%で、7.8 ポイントの差があった。年齢別では 11 歳から 14 歳にかけて「あてはまる」の割合が数ポイントずつ小さくなっていた(図表 43)。

次に、「自分の親(保護者)から愛されていると思う」という質問では、「あてはまる」の回答は、在学学校別に小学校で 74.0%、中学校 68.8%で 5.2 ポイントの差があった。なお、性別や同居家族別において差は大きくなかった(図表 44)。

また、「うまくいくかわからないことにもがんばって取り組む」という質問では、「あてはまる」の回答は、在学学校別には小学校 39.5%、中学校 32.1%で 7.4 ポイントの差があった。年齢別では 10 歳から 13 歳にかけて「あてはまる」の割合が数ポイントずつ小さくなっていた(図表 45)。

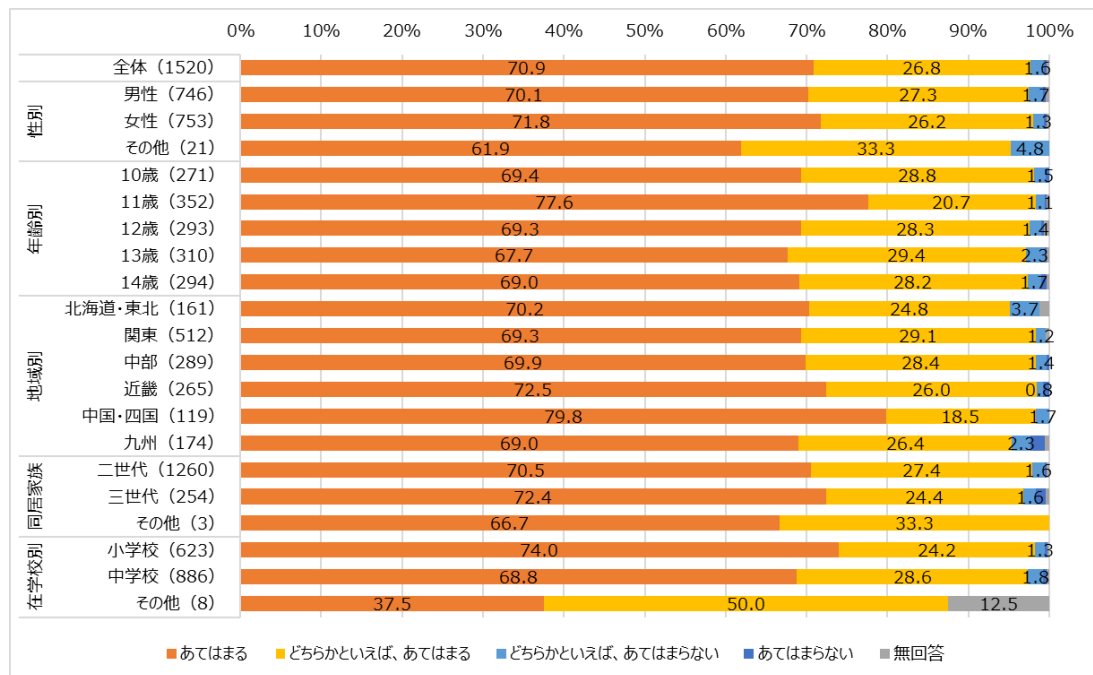
さらには、「自分は役に立たないと強く感じる」という質問では、「あてはまる」と「どちらかといえば、あてはまる」を合わせた回答は、在学学校別には小学校 18.1%、中学校 28.5%で、10.4 ポイントの差があった。性別や同居家族別では差は大きくないが、年齢差が大きかった(図表 46)。

図表 43 自己肯定感に関する設問の集計結果(今の自分が好きだ)
(10～14 歳対象調査)



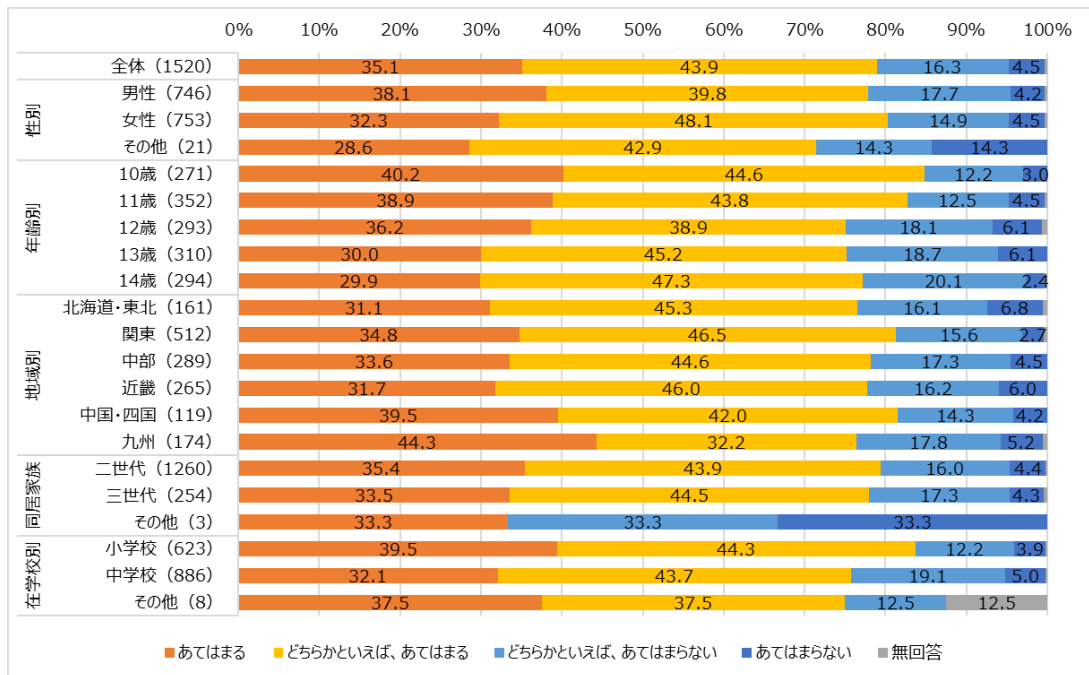
※ 問1 あなた自身について、次のことがどのくらいあてはまりますか。ア)今の自分が好きだ(SA)
出所)こども家庭庁「こども・若者の意識と生活に関する調査(令和4年度)」よりMRA作成

図表 44 自己肯定感に関する設問の集計結果
(自分の親(保護者)から愛されていると思う)(10～14 歳対象調査)



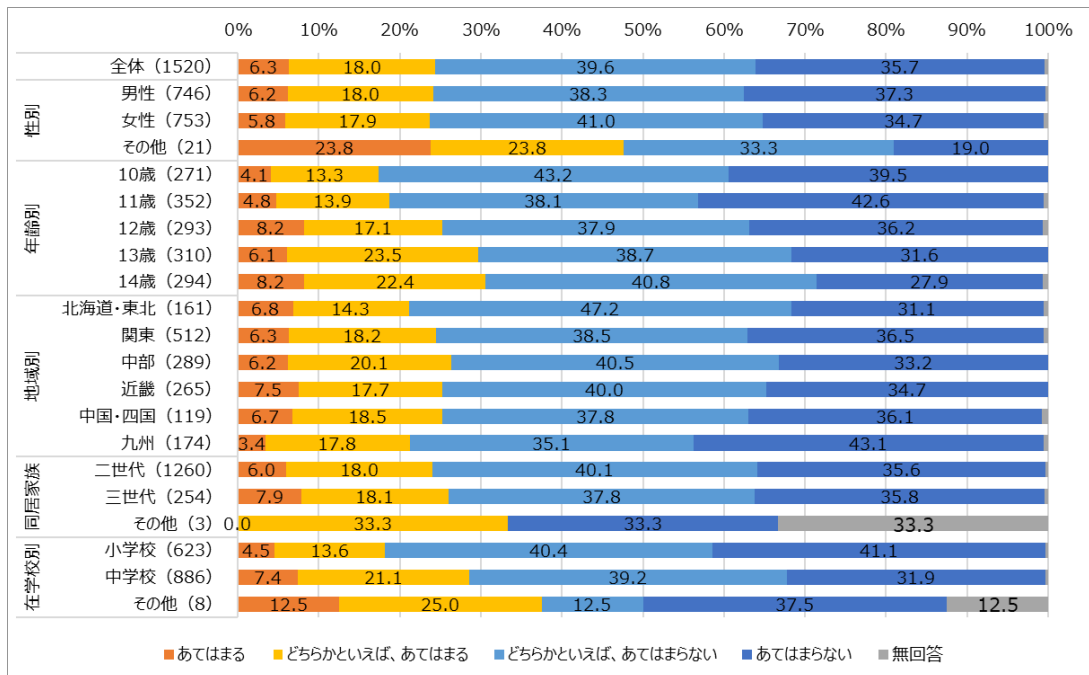
※ 問1 あなた自身について、次のことがどのくらいあてはまりますか。イ)自分の親(保護者)から愛されていると思う(SA)
出所)こども家庭庁「こども・若者の意識と生活に関する調査(令和4年度)」よりMRA作成

図表 45 自己肯定感に関する設問の集計結果
(うまくいくかわからないことにもがんばって取り組む)(10～14 歳対象調査)



※ 問1 あなた自身について、次のことがどのくらいあてはまりますか。ウ)うまくいくかわからないことにもがんばって取り組む(SA 出所)子ども家庭庁「子ども・若者の意識と生活に関する調査(令和4年度)」よりMRA作成

図表 46 自己肯定感に関する設問の集計結果(自分は役に立たないと強く感じる)
(10～14 歳対象調査)



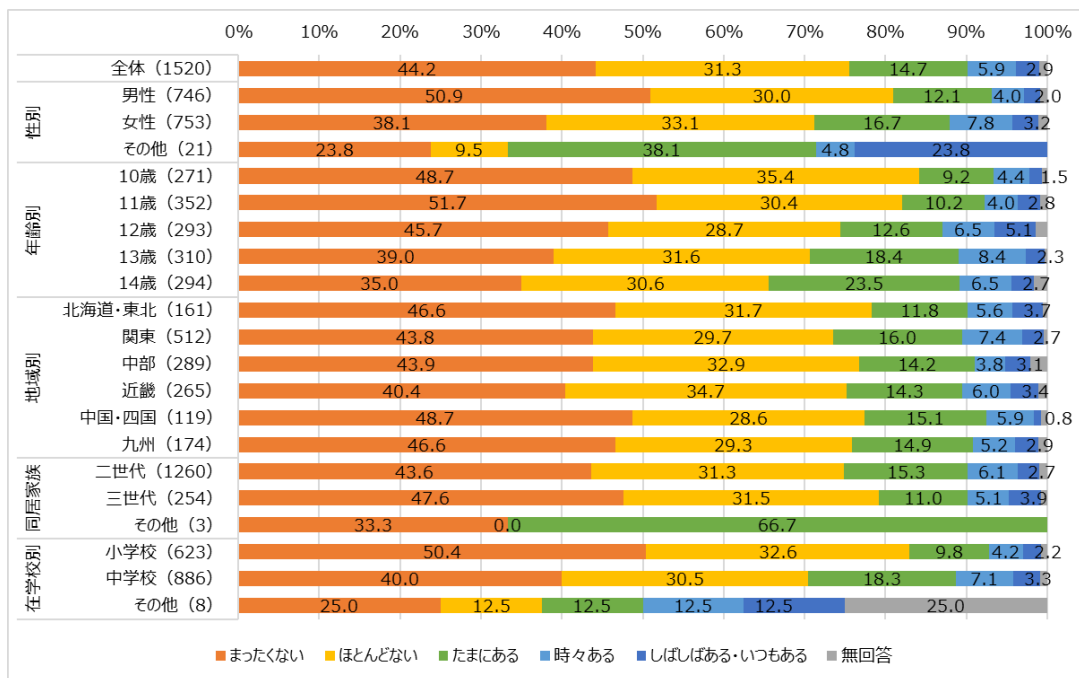
※ 問1 あなた自身について、次のことがどのくらいあてはまりますか。エ)自分は役に立たないと強く感じる(SA 出所)子ども家庭庁「子ども・若者の意識と生活に関する調査(令和4年度)」よりMRA作成

孤独感に関しては、「あなたはどの程度、孤独であると感じることがあるか」という質問で、「まったくな

い」と「ほとんどない」を合わせた割合を在学学校別にみると、小学校 83.0%、中学校 70.5%で、12.5 ポイントの差があった。性別では、男性の方が女性より 9.7 ポイント大きかった(図表 47)。

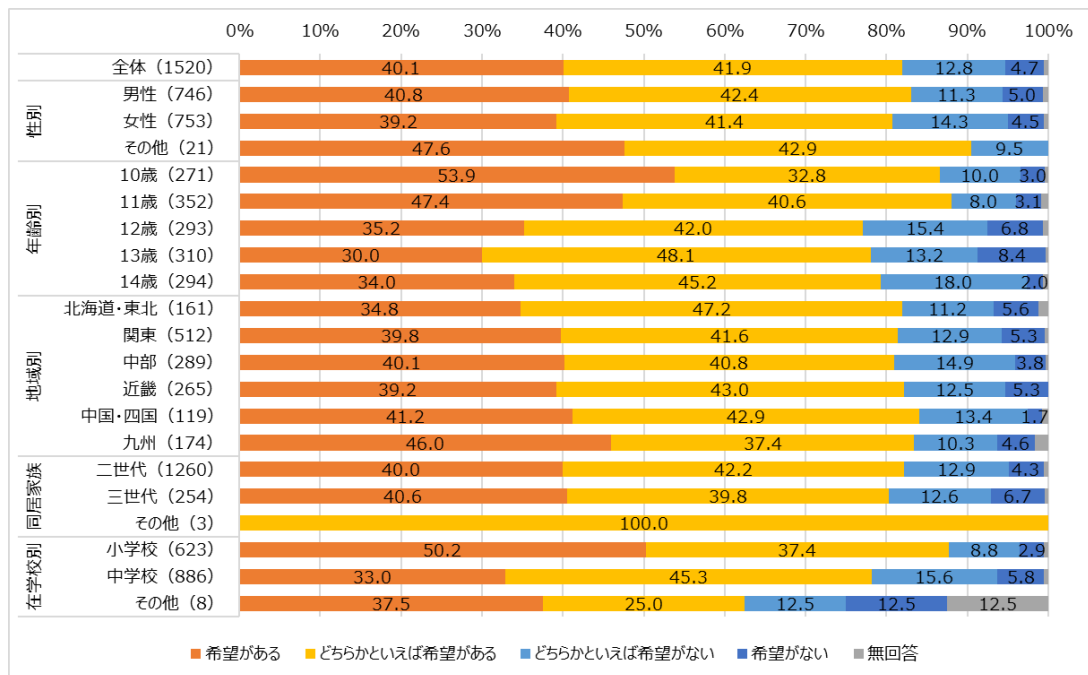
また、自分の将来に関して、「自分の将来について明るい希望を持っているか」という質問では、「希望がある」の割合を在学学校別にみると、小学校 50.2%、中学校 33.0%で、17.2 ポイントの差があった。また、地域差では九州が大きく、性別や同居家族別では差は大きくなかった(図表 48)。

図表 47 孤独感に関する設問の集計結果(10～14 歳対象調査)



※ 問 4-2 あなたはどの程度、孤独であると感じることがありますか。(SA)
出所)こども家庭庁「こども・若者の意識と生活に関する調査(令和 4 年度)」より MRA 作成

図表 48 自分の将来に関する設問の集計結果(10～14 歳対象調査)



※ 問 11 あなたは、自分の将来について明るい希望を持っていますか。(SA)
出所)こども家庭庁「こども・若者の意識と生活に関する調査(令和 4 年度)」より MRA 作成

2.3 沖縄のこどもの主観的要素等に関する調査

2.3.1 沖縄のこどもの主観的要素等に関するアンケート調査

(1) 調査目的・概要

沖縄のこどもの幸福度等の主観的要素と現状・課題に関する状況を把握し、沖縄におけるこどものウェルビーイング実現に向けた政策研究のテーマ検討に資する基礎データとすることを目的とし、下記 2 点を実施した。

① 沖縄のこどもの主観的要素の把握・分析：

沖縄のこどもの幸福度等に関する主観的要素を調査するため、こども家庭庁「こども・若者の意識と生活に関する調査」等の既存調査と共通の設問を用いることで、全国と比較した沖縄の特徴を分析する。

② 沖縄のこどもの現状・課題に関する客観的要素の把握・分析：

文献調査等の結果を参考に、沖縄のこどもの現状・課題に関する客観的要素と主観的要素の関係を分析することで、沖縄のこどものウェルビーイング実現に向けた政策課題・視点を獲得。

ここで、アンケート調査を実施するにあたり、主観的要素と客観的要素の定義を行った。

「主観的要素」とは、心や精神の状態(幸福度、満足度、孤独感、価値観 等)に関わる要素、「客観的要素」とは、属性(性別・年齢、経済状況 等)、学力、周辺環境(住居、公共施設 等)、行動(勉強や運動等の実施状態、生活時間 等)に関わる要素と定義した。

アンケート調査の概要は、図表 49 に示す。

図表 49 アンケート調査の概要

調査名	沖縄のこどものウェルビーイングに関する調査～こどもの意識と生活について～
調査対象	沖縄県内に在住する 10～17 歳(令和 7 年 4 月 1 日時点)のこども
調査方法	郵送配布、郵送回収または WEB 回収
調査項目	ア. 主観的要素に関する項目、イ. 客観的要素に関する項目
調査票の種類・設問数	年齢区分に応じて 10～14 歳票(全 27 問)、15～17 歳票(全 28 問)の 2 種類、無記名(個人特定なし)で実施
調査期間	2025 年 9 月 22 日～10 月 17 日
抽出方法	層化二段無作為抽出法(住民基本台帳)
標本数及び有効回答	標本数 5,000(10～14 歳 2,586、15～17 歳 2,414) 有効回答数(率) 1,735(34.7%) うち、10～14 歳 987(38.2%)、15～17 歳 748(31.0%)

標本の抽出は、住民基本台帳から層化二段階無作為抽出法で行い、沖縄県の市町村を 6 地域(那覇市、北部、中部、南部、宮古、八重山)に分類した上で(図表 50)、2 種類の調査票ごとに地域・性別で人口比例配分した。ただし、宮古・八重山エリアは、標本の確保のため、地域の 2 倍の数で標本割付している(図表 51)。

また、集計にあたっては、沖縄県のこども(10～17 歳)の人口構成比を反映するため、性・年齢・地域別にウェイトを付した(ウェイトバックした)。ウェイト値は、地域のうち那覇市を「南部」に含め、宮古と八重山を「宮古・八重山」の 1 地域に集約して計算した。また、性別「その他」及び居住地域「その他」の回答を除く有効回答で計算した。なお、各設問における無回答の割合は集計に含めた。

図表 50 地域分類

地域	市町村	地域	市町村
那覇市	那覇市	南部	糸満市
北部	名護市		豊見城市
	国頭村		南城市
	大宜味村		与那原町
	東村		南風原町
	今帰仁村		八重瀬町
	本部町		渡嘉敷村
	恩納村		座間味村
	宜野座村		粟国村
	金武町		渡名喜村
	伊江村		南大東村
	伊平屋村		北大東村
	伊是名村		久米島町
中部	宜野湾市	宮古	宮古島市
	浦添市		多良間村
	沖縄市	八重山	石垣市
	うるま市		竹富町
	読谷村		与那国町
	嘉手納町		
	北谷町		
	北中城村		
	中城村		
	西原町		

図表 51 アンケート調査の母集団・標本数・回答数・回収率及び集計時ウェイト値

対象		母集団			標本数			回収数				回収率	集計時ウェイト値	
		男性	女性	合計	男性	女性	合計	男性	女性	その他	合計		男性	女性
全体	計	68,707	66,225	134,932	2,541	2,459	5,000	828	883	24	1,735	34.7%		
	北部	6,122	5,681	11,802	202	204	406	60	65	2	127			
	中部	30,656	29,671	60,328	1,074	1,023	2,097	328	373	12	713			
	南部	14,110	13,479	27,589	481	474	955	178	177	3	358			
	那覇市	13,106	12,854	25,960	460	446	906	153	164	7	324			
	宮古	2,349	2,129	4,478	157	150	307	47	46	0	93			
	八重山	2,364	2,411	4,774	167	162	329	60	57	0	117			
	その他	-	-	-	-	-	-	2	1	0	3			
10～14歳	計	43,386	41,945	85,331	1,317	1,269	2,586	480	497	10	987	38.2%		
	北部	3,725	3,598	7,323	104	104	208	39	41	1	81		1.21	1.11
	中部	19,356	18,698	38,054	545	523	1,068	176	199	5	380		1.39	1.19
	南部	9,125	8,724	17,849	257	250	507	112	103	2	217		1.09	1.10
	那覇市	8,149	7,991	16,140	235	225	460	88	90	2	180			
	宮古	1,506	1,364	2,870	87	78	165	29	27	0	56		0.59	0.58
	八重山	1,525	1,570	3,095	89	89	178	36	37	0	73			
	その他	-	-	-	-	-	-	0	0	0	0		0.00	0.00
15～17歳*	計	25,321	24,280	49,601	1,224	1,190	2,414	348	386	14	748	31.0%		
	北部	2,397	2,083	4,479	98	100	198	21	24	1	46		1.44	1.10
	中部	11,300	10,973	22,274	529	500	1,029	152	174	7	333		0.94	0.80
	南部	4,985	4,755	9,740	224	224	448	66	74	1	141			
	那覇市	4,957	4,863	9,820	225	221	446	65	74	5	144		0.96	0.82
	宮古	843	765	1,608	70	72	142	18	19	0	37		0.51	0.52
	八重山	839	841	1,679	78	73	151	24	20	0	44			
	その他	-	-	-	-	-	-	2	1	0	3		0.00	0.00

* 沖縄県「令和 7 年住民基本台帳年齢別人口」(令和 7 年 1 月 1 日現在、総数)より 10～14 歳、15～19 歳の人口を性・年齢・地域別に集計した。調査対象である 15～17 歳の人口は、総務省「令和 2 年国勢調査」より沖縄県市町村別の性・年齢(1 歳年齢別)人口を集計して按分係数を作成し、15～19 歳人口を補正し、推計した。

(2) 調査項目

1) 調査項目の設計及び概要

アンケートは、沖縄県在住のこどもを対象に行い、今の幸福感や自己肯定感等の主観的要素や、生活時間や学習環境等の客観的要素について問う設問とした。アンケートの対象者は、沖縄県内に在住する 10～17 歳(令和 7 年 4 月 1 日時点)のこどもであることから、学習の進捗度合いを鑑みて、調査票を 10～14 歳向け(以下、「10～14 歳票」という。)と 15～17 歳向け(以下、「15～17 歳票」という。)の 2 種類作成し、低年齢向けの 10～14 歳票については、15～17 歳向けと質問内容は同じであるが、ふりがなを付した。

調査項目は、2 つの実施内容に合わせて設計した(図表 52)。すなわち、①沖縄のこどもの主観的要素の把握・分析では、基本的に全国やその他の地域の数値とも比較できるよう、公的機関による類似の既存調査と共通の設問を採用した。また、仮説検証や分析、将来的に目標設定等への活用を念頭に、文献調査やヒアリングの結果を踏まえた独自の設問を作成し追加した。②沖縄のこどもの現状・課題に関する客観的要素の把握・分析では、2.1 で実施した文献調査やヒアリングの結果を踏まえ、関連する客観的要素の設問を公的機関による類似の既存調査から採用した。また、既存調査にない設問については、独自の設問を作成し追加した。

図表 52 調査項目の設計

参考にした既存調査	採用した設問例	採用した実施内容
こども家庭庁「こども・若者の意識と生活に関する調査(令和 4 年度)」の一部設問	今の幸福度※1、自己認識、居場所、孤独感、他者との関わり方、将来への希望、相談相手・支援	①沖縄のこどもの主観的要素の把握・分析
	属性、家での過ごし方	②沖縄のこどもの現状・課題に関する客観的要素の把握・分析
東京都「とうきょうこどもアンケート(令和 6 年)」の一部設問	進路・将来像、今の幸福感※1	①沖縄のこどもの主観的要素の把握・分析
	情報端末の利用時間、希望する進路までの障害、所有物※2	②沖縄のこどもの現状・課題に関する客観的要素の把握・分析
沖縄県「沖縄こども調査(令和 6 年度小中学生調査、令和 4 年度高校生調査)」の一部設問	勉強場所、学習のつまずき、所有物※2	②沖縄のこどもの現状・課題に関する客観的要素の把握・分析
参考にした既存調査なし (沖縄のこどもを取り巻く現状・課題を踏まえた独自の設問)	親の幸福度、沖縄の転出意向、親からの影響	①沖縄のこどもの主観的要素の把握・分析
	生活時間(SNS 利用時間)	②沖縄のこどもの現状・課題に関する客観的要素の把握・分析

※1 こども家庭庁の調査における 4 段階で主観的要素を回答する設問は、本調査でも既存調査との比較のため踏襲する。加えて、今後の分析・検討のため、同じ趣旨の設問であっても、国際的に標準的な 11 段階で主観的要素を回答する設問も採用する(東京都の調査も 11 段階を採用)。

※2 本調査では保護者は調査対象外であり、保護者の所得といった経済状況(つまり、こどもの経済状況)を把握することができない。そのため、それを代替するものとして、こどもに所有物を問うことで間接的に経済状況を把握する。

以上より、アンケート調査票の設問は 22 問となった。調査項目の概要は図表 53 に示し、2.3.1 (2) に調査票を付している。

図表 53 調査項目の概要

設問番号	主観/客観	設問概要	設問参考	10～14 歳票	15～17 歳票
F1	客観	性別	こ家庁	○	○
F2	客観	年齢	こ家庁	○	○
F3	客観	同居者	こ家庁	○	○
F4-1	客観	在学	こ家庁	●	●
F4-2	客観	就業経験	こ家庁	-	○
F5	客観	居住地	独自	○	○
問 1	主観	自己肯定感	こ家庁	ア～エ	ア～エ
問 2	主観	(主観的)幸福度	こ家庁	○	○
問 3	主観	こどもからみた親の幸福感	独自	○	○
問 4	主観	居場所(ほっとできる場所・安心できる場所)	こ家庁	ア～オ	ア～オ
問 5	主観	孤独感	こ家庁	○	○
問 6	主観	周囲の人との関わり方(家族・親戚)	こ家庁	ア～ウ	ア～カ*
問 7	主観	周囲の人との関わり方(学校の友人)	こ家庁	ア～ウ	ア～カ*
問 8	主観	周囲の人との関わり方(地域の人)	こ家庁	ア～ウ	ア～カ*
問 9	主観	将来への希望	こ家庁	○	○
問 10	客観	家での過ごし方(生活時間)	沖縄県改変	ア～カ	ア～カ
問 11	主観	相談相手	こ家庁	○	○
問 12	主観	相談相手なしの理由	こ家庁	○	○
問 13	客観	相談場所の認知度	こ家庁	○	○
問 14	客観	勉強場所	沖縄県	○	○
問 15	主観	勉強のつまずき	沖縄県	○	○
問 16	主観	勉強のつまずき(授業が分からなくなる)時期	沖縄県	●	●
問 17	主観	社会に出る時期	東京都	○	○
問 18	主観	沖縄の転出意向	独自	○	○
問 19	主観	将来像までの障害	東京都	○	○
問 20	客観	所有物	沖縄県	ア～ス	ア～セ*
問 21	主観	自己肯定感、主観的幸福度、生活満足度 等	東京都	ア～ケ	ア～ケ
問 22	主観	親からの影響(自由記述)	独自	○	○

凡例)【設問参考】こ家庁:こども家庭庁「こども・若者の意識と生活に関する調査(令和 4 年度)」、沖縄県:沖縄県「令和 6 年度沖縄こども調査(小中学生調査)」及び「令和 4 年度沖縄こども調査(高校生)」、東京都:東京都「とうきょうこどもアンケート(令和 6 年)」
【10～14 歳票】、【15～17 歳票】○:同設問文・同選択肢、●:同設問文・異なる選択肢、ア～セ:小項目の種類(*は異なる種類の場合)

a. 10~14 歲票

図表 54 調査票(10~14 歳)(1/6)

[illegible]

F5 現在、あなたが住んでいる市町村はどこですか。(1つだけ)

1 名護市	13 豊後市	25 豊見城市	37 宮古島市
2 国頭市	14 浦添市	26 南城市	38 岩手市
3 天童市	15 糸通市	27 与那原町	39 多良間町
4 東村	16 うるま市	28 南風原町	40 竹富町
5 今帰仁村	17 読谷村	29 八重瀬町	41 与那国町
6 本部町	18 眞手松町	30 渡嘉敷村	42 その他
7 豊後村	19 北谷町	31 座間味村	(具体的に：)
8 豊後座村	20 北中城村	32 東国村	
9 金武町	21 中城村	33 渡名喜村	
10 伊江村	22 西原町	34 南大東村	
11 伊平屋村	23 糸通市	35 北大東村	
12 伊豆名村	24 糸通市	36 父栄島町	

ここから、質問が始まります。

全頁にお読みします。

問1 あなた自身について、次のことかどのくらいあてはまりますか。それぞれの質問について、あてはまる番号を1つお答えください。

	あてはまる	1	2	3	4
ア) 今の自分が好きだ	⇒	1	2	3	4
イ) 自分の親(保護者)から愛されていると思う	⇒	1	2	3	4
ウ) うまくいくかわからないことにもがんばって取り組む	⇒	1	2	3	4
エ) 自分は役に立たないと感じる	⇒	1	2	3	4

図表 55 調査票(10～14 歳)(2/6)

問2 あなたは、今、自分が幸せだと思いますか。あなたの実感をお答えください。(1つだけ)

1 そう思う
2 どちらかといえば、そう思う
3 どちらかといえば、そう思わない
4 そう思わない

問3 あなたは、今、自分の親(保護者)が幸せだと思いますか。あなたの実感をお答えください。(1つだけ)

1 そう思う
2 どちらかといえば、そう思う
3 どちらかといえば、そう思わない
4 そう思わない

問4 次の場所は、今のあなたにとって居場所(ほっとできる場所、安心できる場所)になっていますか。

それぞれの質問について、あてはまる番号を1つお答えください。

	1	2	3	4	5
ア) 自分の部屋	⇒	1	2	3	4
イ) 家庭(親せきの家を含む)	⇒	1	2	3	4
ウ) 学校	⇒	1	2	3	4
エ) 地域(図書館や公民館や公園など、親が住んでいる場所やそこにある建物など)	⇒	1	2	3	4
オ) インターネット空間(SNS、YouTubeやオンラインゲームなど)	⇒	1	2	3	4

問5 あなたはどの程度、孤独であると感じることがありますか。(1つだけ)

1 まったくない
2 ほとんどない
3 たまにある
4 時々ある
5 しばしばある・いつもある

問6 家族・親せきとあなたのかかわりは、どのようなものですか。それぞれの質問について、あてはまる番号を1つお答えください。

そう思う	そう思う	どちらかといえば思う	どちらかといえば思う	そう思う
	⇒ 1	2	3	4
ア) 何でも悩みを相談できる人がいる	⇒ 1	2	3	4
イ) 困ったときは助けてくれる	⇒ 1	2	3	4
ウ) 他の人には言えない悩みを話せることがある	⇒ 1	2	3	4

問7 学校で出会った友だち(現在通っている学校やこれまでに通っていた学校の友だちなど)と、あなたのかかわりは、どのようなものですか。それぞれの質問について、あてはまる番号を1つお答えください。

そう思う	そう思う	どちらかといえば思う	どちらかといえば思う	そう思う
	⇒ 1	2	3	4
ア) 何でも悩みを相談できる人がいる	⇒ 1	2	3	4
イ) 困ったときは助けてくれる	⇒ 1	2	3	4
ウ) 他の人には言えない悩みを話せることがある	⇒ 1	2	3	4

問8 地域の人の(近所の人、塾や習い事での友だちなど)とあなたのかかわりは、どのようなものですか。それぞれの質問について、あてはまる番号を1つお答えください。

そう思う	そう思う	どちらかといえば思う	どちらかといえば思う	そう思う
	⇒ 1	2	3	4
ア) 何でも悩みを相談できる人がいる	⇒ 1	2	3	4
イ) 困ったときは助けてくれる	⇒ 1	2	3	4
ウ) 他の人には言えない悩みを話せることがある	⇒ 1	2	3	4

問9 あなたは、自分の将来について明るい希望を持っていますか。(1つだけ)

1 希望がある
2 どちらかといえば希望がある
3 どちらかといえば希望がない
4 希望がない

問10 あなたが平日(学校がある日、家暮らししている場所)にいるときは、どんなことに時間を使っていますか。それぞれの質問について、1日あたりの具体的な時間を1つお答えください。

全くみない、しない	30分未満	30分～1時間未満	1時間～2時間未満	2時間～3時間未満	3時間～4時間未満	4時間～5時間未満	5時間～6時間未満	6時間～7時間未満	7時間～8時間未満	8時間以上
ア) ゲームをする(ゲーム機、ウェブ、スマートフォンアプリなどを含む)⇒	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10 11
イ) SNSやコミュニケーションツールをみたり、書き込んだりする(Instagram・X・LINE・TikTok・チャットなど)⇒	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10 11
ウ) テレビや動画配信サービスを見る(映画、ドラマ、アニメ、YouTubeなど)⇒	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10 11
エ) 勉強をする(学校の授業以外での勉強時間。学校の宿題をする時間や塾などでの勉強時間を含む)⇒	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10 11
オ) 家事をする(洗濯、掃除、料理、片付けなど)⇒	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10 11
カ) 父母・祖父母などの家族の介護・看病やきょうだいの世話を⇒	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10 11

図表 57 調査票(10～14 歳)(4/6)

問 11 あなたは、ものごとがうまくいかず落ち込んだときに、どういった人なら相談したり、助けてもらったりしやすいと感じますか。あてはまるものすべてを選んでください。(いくつでも)

1 家族や親せき

2 学校の友だち

3 地域の友だち

4 先輩や後輩

5 学校の先生

6 スクールカウンセラーなど学校にいる専門家

7 地域の父

8 病院や相談できる場所などにいる専門家(学校以外の専門家)

9 同じように落ち込んだ経験をした人

10 その他(具体的に:)

11 誰にも相談したり、助けてもらったりしように思わない

12 わからない → 問 13 へお進みください

問 13 へお進みください

問 12 「誰にも相談したり、助けてもらったりしように思わない」の理由をお答えください。(いくつでも)

1 相談しても解決できないと思うから

2 自分ひとりで解決するべきだと思うから

3 誰にも知られたくないからだから

4 自分が愛する人に思われるのではないかと不安だから

5 自分の欠点や失敗を隠く言われそうだから

6 相手がどんな人かわからないから

7 何を聞かれるか不安に思うから

8 嫌なこと、できないことをするように言われそうだから

9 相手にうまく伝えられないから

10 裏切られたり、失望するのが嫌だから

11 お金がからかると思うから

12 その他(具体的に:)

13 特に理由はない、わからない

全頁にお聞きます。

問 13 あなたは、家庭や学校以外で、悩みや困りごとなどを相談できる場所があることを知っていますか。(1 つだけ)

1 知っている

2 知らない

問 14 あなたは、ふだん学校の授業以外で、どのように勉強をしていますか。(いくつでも)

※勉強には学校の宿題も含まれます。

1 自分で勉強する

2 塾で勉強する

3 家庭教師に教えてもらう

4 地域の人が行う無料の勉強会に参加する

5 家の人に教えてもらう

6 友だちと勉強する

7 その他(具体的に:)

8 学校の授業以外で勉強はしない

問 15 あなたは、学校の授業がわからないことがありますか。(1 つだけ)

1 いつもわかる

2 だいたいわかる

3 教科によってはわからないことがある

4 わからないことが多い

5 ほとんどわからない

問 16 いづれから、授業がわからなくなりましたか。(1 つだけ)

1 小学1・2年生のころ

2 小学3・4年生のころ

3 小学5・6年生のころ

4 中学1年生のころ

5 中学2年生のころ

6 中学3年生のころ

7 わからない

57

6

7

全頁にお聞きます。

問 17 あなたは将来、いつから社会に出て働くことを考えていますか。(1つだけ)

※学校に所属しながらのアルバイトは除きます。

- | | |
|---|-----------------------------------|
| 1 | 中学卒業後 |
| 2 | 高校卒業後 |
| 3 | 専修学校・専門学校(ひとつの分野を深く学ぶ学校)卒業後 |
| 4 | 短期大学(2年制の大学)、高等専門学校(技術者を育てる学校)卒業後 |
| 5 | 大学・大学院(大学よりも上の学校)卒業後 |
| 6 | その他(具体的に:) |
| 7 | まだわからない |

問 18 あなたは将来、進学や就職の為に、短期間で他の都道府県や海外に出ていこうと思いませんか。
短期間を出た後に、その先の将来で短期間に戻ってこようと思いませんか。(1つだけ)

- | | |
|---|--|
| 1 | 進学や就職で他の都道府県・海外に出るつもりで、そのあと短期間内(本島以外も含む)に戻る予定はない |
| 2 | 進学や就職で他の都道府県・海外に出るが、いずれ短期間内(本島以外も含む)に戻る予定である |
| 3 | 他の都道府県・海外に出ずに、ずっと短期間(本島以外も含む)にいるつもり |
| 4 | まだわからない |

問 19 自分の描く将来像や進路に関して、問題があるとすればそれはどんなことですか。(いくつでも)

- | | |
|---|-------------------------|
| 1 | 家庭のお金の問題 |
| 2 | 希望する将来の夢や進路を叶える方法が分からない |
| 3 | 保護者の理解が得られない、考え方の違い |
| 4 | 自分の健康上の問題 |
| 5 | 自分の努力不足 |
| 6 | その他(具体的に:) |
| 7 | まだわからない |
| 8 | 特に問題はない |

問 20 あなたは、自分が使うことができる、以下のものがありますか(できますか)。それぞれの質問について、あてはまる番号を1つお答えください。

	ある	なし(ほうじ)	なし(ほうくなし)
ア) 自分の楽しみのための本(マンガやダウンロードするものを含む)	⇒ 1	2	3
イ) こども部屋(きょうだいで使っている場合も含む)	⇒ 1	2	3
ウ) (自宅で)インターネットにつながる環境	⇒ 1	2	3
エ) 自宅で宿題をすることができる場所	⇒ 1	2	3
オ) スポーツ用品	⇒ 1	2	3
カ) 自転車	⇒ 1	2	3
キ) 2足以上のサイズのあった靴	⇒ 1	2	3
ク) スマートフォン	⇒ 1	2	3
ケ) 学習塾(家庭教師、オンライン含む)	⇒ 1	2	3
コ) 1年に1回の家族旅行(1泊以上)	⇒ 1	2	3
サ) 友だちが持っているような文具(えんぴつ、消しゴム、線糊など)	⇒ 1	2	3
シ) 新しい(お古でない)洋服	⇒ 1	2	3
ス) 古い車(音楽、スポーツ、習字など)	⇒ 1	2	3

図表 58 調査票(10～14 歳)(5/6)

図表 59 調査票(10～14 歳)(6/6)

問 22 あなたは親(保護者)からしてもらったことで嬉しかった・楽しかったことはどんなことですか。悪い事か、良いことやエピソードを、自由に、いくつでも書いてください。(自由記述)

協力ありがとうございました。調査はこれで終了です。

問 21 あなたは、次のことがどれくらいあてはまりますか。それぞれの質問について、0(まったくあてはまらない)～10(とてもあてはまる)の間で、あてはまる番号を1つお答えください。

	0 (まったくあてはまらない)	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10 (とてもあてはまる)
ア) 毎日たくさん笑っている ⇒	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
イ) 今の自分は幸せだ ⇒	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
ウ) 今の自分の生活に満足している ⇒	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
エ) 今の自分が好きだ ⇒	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
オ) 人生を楽しんでいる ⇒	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
カ) 自分は他人から必要とされている ⇒	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
キ) 勉強、趣味など、何か夢中になれることがある ⇒	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
ク) 自分には、夢や目標がある ⇒	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
ケ) あなたの親(保護者)はあなたの良いところをほめてくれる ⇒	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10

沖縄のこどものウェルビーイングに関する調査
～こどもの意識と生活について～
沖縄県にお住まいの15歳～17歳の方(令和7年4月1日時点)

【ご記入にあたってのお願い】

※調査票には、あて名のご本人がお答えください。名前は、書かないでください。

※自分の思う答えを書いてください。まちがった答えや、正しい答えはありません。また、答えたくない質問には答えなくても大丈夫です。

※ページの順に進み、選択肢番号に○をつけてお答えください。

また、○を1つだけつける質問と、○をいくつでもつけてよい質問がありますので、質問文をよく読んでください。

＜正しい例＞○を1つだけつける質問

＜正しい例＞○を1つだけつける質問

(1つだけ)

	それと別の質問について、あなたは 番号をつけてお答えください。				
ア) 会談やメール等よくしている	⇒	1	2	3	4
イ) 何でも悩みを相談できる人がいる	⇒	1	2	3	4
ウ) 誰か相談できる人がいる	⇒	1	2	3	4
エ) 誰か相談できる人がいる	⇒	1	2	3	4

＜正しい例＞○をいくつでもつけてよい質問

現在、あなたと同居している方をお答えください。(いくつでも)

① 父 ② 母 ③ きょうだい ④ 相父母

5 その他親族 6 その他(具体的に:) 7 同居している人はいない (一人暮らし)

※この調査票では名前を書かないので、どのように答えただけでもわかりません。

※ご記入いただいた調査票は、同封の返信用封筒に入れて、切手を貼らずに、

10月13日(月曜日)までに 郵便ポストへ投函してください。

※なお、インターネットでご回答いただくこともできます。質問内容は同じですので、郵便かインターネットのどちらかで、上記の期日までに回答ください。インターネットでの回答方法は、同封している「アンケート調査のご協力をお願い」の「インターネットでの回答の仕方」をご覧ください。

【調査主体】内閣府 沖縄振興局総務課事業振興室

【お問い合わせ先】株式会社サーベイリサーチセンター 沖縄事務所

〒900-0015 沖縄県那覇市久茂地 3-21-19 階

フリーダイヤル:0800-888-5585(平日9時から17時)

1

図表 60 調査票(15~17歳)(1/6)

はしめに、あなた自身のことについてお聞きします。 全員にお聞きします。	
F1 あなたの性別をお答えください。(1つだけ)	
1 男性	
2 女性	
3 その他(どちらともいえない・わからない・答えない)	
F2 あなたの年齢をお答えください。(1つだけ) ※令和 7 年4月1日時点の年齢をお答えください。	
1 15 歳	
2 16 歳	
3 17 歳	
F3 現在、あなたと同居している方をお答えください。(いくつでも) ※里親や児童養護施設、学生寮などで暮らしている方は、16 その他をお選びください。	
1 父	5 その他猫族
2 母	6 その他(具体的に:)
3 ぎょうだい	7 同居している人はいない(一人暮らし)
4 祖父母	
F4-1 あなたが最後に卒業(中退を含む)した学校はどこですか。 在学中の方は、現在在学している学校をお答えください。(1つだけ)	
1 中学校	4 高等専門学校
2 高等学校	5 その他(具体的に:)
3 専修学校	
F4-2 あなたの就業経験についてお答えください。(パート・アルバイトを含む)(1つだけ)	
1 現在、就業している	
2 現在、就業しているが、休職や休業中である	
3 現在は就業していないが、過去に就業経験がある	
4 これまでに就業経験はない	

F5 現在、あなたが住んでいる市町村はどこですか。(1つだけ)

1 名蔵市	13 豊野津市	25 豊見城市	37 宮古島市
2 国頭村	14 浦添市	26 南城市	38 石垣市
3 大宜味村	15 沖縄市	27 与那原町	39 多良間村
4 東村	16 うるま市	28 南風原町	40 竹富町
5 今帰仁村	17 読谷村	29 八重瀬町	41 与那国町
6 本部町	18 嘉手納町	30 渡嘉敷村	42 その他
7 恩納村	19 北谷町	31 座間味村	(具体的に:)
8 宜野座村	20 北中城村	32 粟国村	
9 金武町	21 中城村	33 渡名喜村	
10 伊江村	22 西原町	34 南大東村	
11 伊平屋村	23 那覇市	35 北大東村	
12 伊是名村	24 糸満市	36 久米島町	

ここから、質問が始まります。

全員にお聞きます。

問1 あなた自身について、次のことがどのくらいあてはまりますか。それぞれの質問について、あてはまる番号を1つお答えください。

	あてはまる	あてはまるくらいではない	あてはまらない
ア) 今の自分が好きだ	⇒ 1	2	3 4
イ) 自分の親(保護者)から愛されていると思う	⇒ 1	2	3 4
ウ) うまくいくかわからないことにもがんばって取り組む	⇒ 1	2	3 4
エ) 自分は役に立たないと強く感じる	⇒ 1	2	3 4

問2 あなたは、今、自分が幸せだと思いますか。あなたの実感をお答えください。(1つだけ)

1 そう思う
2 どちらかといえば、そう思う
3 どちらかといえば、そう思わない
4 そう思わない

問3 あなたは、今、自分の親(保護者)が幸せだと思いますか。あなたの実感をお答えください。(1つだけ)

1 そう思う
2 どちらかといえば、そう思う
3 どちらかといえば、そう思わない
4 そう思わない

図表 61 調査票(15～17 歳)(2/6)

問4 次の場所は、今のあなたにとって居場所(ほっとできる場所、安心できる場所)になっていますか。それぞれの質問について、あてはまる番号を1つお答えください。

	そう思う	そう思うくらいではない	そう思わない	あてはまらない
ア) 自分の部屋	⇒ 1	2	3	4 5
イ) 家庭(実家や親族の家を含む)	⇒ 1	2	3	4 5
ウ) 学校(卒業した学校を含む)	⇒ 1	2	3	4 5
エ) 地域(図書館や公民館や公園など、現在住んでいる場所やそこにある建物など)	⇒ 1	2	3	4 5
オ) インターネット空間(SNS、YouTube やオンラインゲームなど)	⇒ 1	2	3	4 5

問5 あなたはどの程度、孤独であると感じることがありますか。(1つだけ)

1 決してない
2 ほとんどない
3 たまにある
4 時々ある
5 しばしばある・常にある

問6 家族・親族とあなたのかかわりは、どのようなものですか。それぞれの質問について、あてはまる番号を1つお答えください。

	そう思う	そう思うくらいではない	そう思わない
ア) 会話やメール等をよくしている	⇒ 1	2	3 4
イ) 何でも悩みを相談できる人がいる	⇒ 1	2	3 4
ウ) 楽しく話せる時がある	⇒ 1	2	3 4
エ) 困ったときは助けてくれる	⇒ 1	2	3 4
オ) 他の人には言えない本音を話せることがある	⇒ 1	2	3 4
カ) いつもつながりを感じている	⇒ 1	2	3 4

問7 学校で出会った友人(現在通っている学校の友人、かつての同級生など)と、あなたの現在のかかわりは、どのようなものですか。それぞれの質問について、あてはまる番号を1つお答えください。

	そう思う	どちらかというくらい思う	どちらかというくらい思わない	そう思わない
ア) 会話やメール等をよくしている	⇒ 1	2	3	4
イ) 何でも悩みを相談できる人がいる	⇒ 1	2	3	4
ウ) 楽しく話せる時がある	⇒ 1	2	3	4
エ) 困ったときは助けてくれる	⇒ 1	2	3	4
オ) 他の人には言えない本音を話せることがある	⇒ 1	2	3	4
カ) いつもつながりを感じている	⇒ 1	2	3	4

問8 地域の人(近所の人、塾や習い事での友人など)とあなたのかかわりは、どのようなものですか。それぞれの質問について、あてはまる番号を1つお答えください。

	そう思う	どちらかというくらい思う	どちらかというくらい思わない	そう思わない
ア) 会話やメール等をよくしている	⇒ 1	2	3	4
イ) 何でも悩みを相談できる人がいる	⇒ 1	2	3	4
ウ) 楽しく話せる時がある	⇒ 1	2	3	4
エ) 困ったときは助けてくれる	⇒ 1	2	3	4
オ) 他の人には言えない本音を話せることがある	⇒ 1	2	3	4
カ) いつもつながりを感じている	⇒ 1	2	3	4

問9 あなたは、自分の将来について明るい希望を持っていますか。(1つだけ)

1	希望がある
2	どちらかといえば希望がある
3	どちらかといえば希望がない
4	希望がない

問10 あなたが平日(学校や仕事がある日)家(暮らしている場所)にいるときは、どんなことに時間を使っていますか。それぞれの質問について、1日あたりの具体的な時間を1つお答えください。

	全日	30分	30分未満	1時間	2時間	3時間	4時間	5時間	6時間	7時間	8時間以上
ア) ゲームをする(ゲーム機、ウェブ、スマートフォンなどのアプリなどを含む)⇒	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11
イ) SNSやコミュニケーションツールをみたり、書き込んだりする (Instagram・X・LINE・TikTok・チャットなど)⇒	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11
ウ) テレビや動画配信サービスを見る (映画、ドラマ、アニメ、YouTube など)⇒	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11
エ) 勉強をする(学校の授業以外での勉強時間。学校の宿題をする時間や塾などでの勉強時間を含む)⇒	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11
オ) 家事をする(洗濯、掃除、料理、片付けなど)⇒	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11
カ) 父母・祖父母などの家族の介護・看察やきょうだいの世話をする⇒	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11

図表 62 調査票(15~17歳)(3/6)

図表 63 調査票(15～7 歳)(4/6)

問 11 あなたが、ものごとかうまくいかず落ち込んだときに、どういった人なら、相談したり、助けてもらったりしやすいと感じますか。あてはまるものすべてを選んでください。(いくつでも)

1 家族や親族

2 学校の友人

3 地域の友人

4 先輩や後輩

5 学校の先生

6 スクールカウンセラーなど学校にいる専門家

7 地域の人

8 病院や相談場所などにいる専門家(学校以外の専門家)

9 同じように落ち込んだ経験をした人たち

10 その他(具体的に:)

11 誰にも相談したり、助けてもらったりしように思わない

12 わからない

問 13 へお進みください

問 12 「誰にも相談したり、助けてもらったりしように思わない」の理由をお答えください。(いくつでも)

1 相談しても解決できないと思うから

2 自分ひとりで解決するべきだと思うから

3 誰にも知られたくないことだから

4 自分が変な人にも思われるのではないかと不安だから

5 自分の欠点や失敗を悪く言われそうだから

6 相手がどんな人かわからないから

7 何を聞かれるか不安に思うから

8 嫌なこと、できないことをするようにならなければならないから

9 相手にうまく伝えられないから

10 裏切られたり、失望するのが嫌だから

11 お金がかかると思うから

12 その他(具体的に:)

13 特に理由はない、わからない

全員にお聞きます。

問 13 あなたは、家庭や学校以外で、悩みや困りごとなどを相談できる場所があることを知っていますか。(1 つだけ)

1 知っている

2 知らない

問 14 あなたは、ふだん学校の授業以外で、どのように勉強をしていますか。(いくつでも)

※勉強には学校の宿題も含まれます。

1 自分で勉強する

2 塾で勉強する

3 家庭教師に教えてもらう

4 地域の人が行う無料の勉強会に参加する

5 家の人に教えてもらう

6 友だちと勉強する

7 その他(具体的に:)

8 学校の授業以外で勉強はしない

問 15 あなたは、学校の授業がわからないことがありますか。(1 つだけ)

1 いつもわかる

2 だいたいわかる

3 教科によってはわからないことがある

4 わからないことが多い

5 ほとんどわからない

6 現在、在学していない

問 17 へお進みください

問 15 で「3」～「5」を選んだ方のみ、お答えください。

問 16 いづつごろから、授業がわからなくなりましたか。(1 つだけ)

1 小学 1・2 年生の頃

2 小学 3・4 年生の頃

3 小学 5・6 年生の頃

4 中学 1 年生の頃

5 中学 2 年生の頃

6 中学 3 年生の頃

7 高校(または専修学校、高等専門学校)1 年生の頃

8 高校(または専修学校、高等専門学校)2 年生の頃

9 高校(または専修学校、高等専門学校)3 年生の頃

10 わからない

63

6

7

全員にお聞きます。

問 17 あなたは将来、いつから社会に出て働こうと考えていますか。(1つだけ)

※学校に所属しながらのアルバイトは除きます。

1	中学卒業後(すでに就労している)
2	高校卒業後
3	専修学校・専門学校卒業後
4	短期大学・高等専門学校卒業後
5	大学・大学院卒業後
6	その他(具体的に:)
7	まだわからない

問 18 あなたは将来、進学や就職のために沖縄県から他の都道府県や海外に出ていこうと思いますか。

1	進学や就職で他の都道府県・海外に出るつもりで、そのあと沖縄県内(本島以外も含む)に戻る予定は ない
2	進学や就職で他の都道府県・海外に出るが、いずれ沖縄県内(本島以外も含む)に戻る予定である
3	他の都道府県・海外に出ずに、ずっと沖縄県(本島以外も含む)にいるつもり
4	まだわからない

問 19 自分の描く将来像や進路に関して、問題があるとするればそれはどんなことですか。(いくつでも)

1	進学費用が足りないなどの経済的な問題
2	希望する将来像や進路を実現する方法が分からない
3	保護者の理解が得られない、考え方の違い
4	自分の健康上の問題
5	自分の努力不足
6	その他(具体的に:)
7	まだわからない
8	特に問題はない

図表 64 調査票(15～17 歳)(5/6)

問 20 あなた自身には、自分が持っている(できる)以下のものがありますか。それぞれ、あなたの状況にもっとも近いものを 1 つ選んでください。

	持っている(もちる)	や り た い な い (か か り な い)	や り た い な い (か か り な い)
ア) (毎年)新しい(お古でない)洋服・靴	⇒ 1	2	3
イ) 自分の部屋	⇒ 1	2	3
ウ) (自宅で)インターネットにつながる環境	⇒ 1	2	3
エ) 家の中で勉強ができる場所	⇒ 1	2	3
オ) 自分がアクセスできる音楽や映画サービス(Hulu, Prime Video, Netflix など)	1	2	3
カ) 友人と遊びに出かけるお金	⇒ 1	2	3
キ) 自分ができるパソコンまたはタブレット	⇒ 1	2	3
ク) スポーツや趣味の道具やウェアなどの必要経費(部活含む)	⇒ 1	2	3
ケ) 定期的なヘアカット	⇒ 1	2	3
コ) 友人が着ているような洋服	⇒ 1	2	3
サ) 2 足以上のサイズのあった靴	⇒ 1	2	3
シ) スマートフォン	⇒ 1	2	3
ス) 学習塾(家庭教師、オンライン含む)	⇒ 1	2	3
セ) 1 年に 1 回の家族旅行(1 泊以上)	⇒ 1	2	3

図表 65 調査票(15～17 歳)(6/6)

問 22 あなたは親(保護者)からしてもらったことで嬉しかった・楽しかったことはどんなことですか。思い浮かぶことやエピソードを、自由に、いくつでも書いてください。(自由記述)

ご協力ありがとうございました。調査はこれで終了です。

問 21 あなたは、次のことかどれくらいあてはまりますか。それぞれの質問について、0(まったくあてはまらない)～10(とてもあてはまる)の間で、あてはまる番号を1つお答えください。

	0 (ま ったくあ てはま らない)	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10 (た ったくあ てはま る)
ア) 毎日たくさん笑っている ⇒	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
イ) 今の自分は幸せだ ⇒	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
ウ) 今の自分の生活に満足している ⇒	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
エ) 今の自分が好きだ ⇒	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
オ) 人生を楽しんでいる ⇒	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
カ) 自分は他人から必要とされている ⇒	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
キ) 勉強、仕事、趣味など、何か夢中になれることがある ⇒	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
ク) 自分には、夢や目標がある ⇒	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
ケ) あなたの親(保護者)はあなたの良いところをほめてくれる ⇒	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10